

令和元年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業 1 頁

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業 3

人財育成及び人材確保

1. 職員研修 4

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業 5

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協活動支援・運営支援 6
2. 地域づくりを支援する事業の充実 9
- ・ふれあいサロン事業
 - ・子どもの居場所
 - ・安心生活見守り支援事業
 - ・歳末たすけあい運動協力事業
 - ・通いの場推進事業
 - ・災害支援ボランティア事業

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実 1 4
- ・いちほら総合相談・生活支援事業
2. 地域生活を支援する事業の充実 1 6
- ・日常生活支援事業
 - ・福祉サービス利用援助事業
 - ・成年後見制度専門相談
 - ・ホームケアサービス事業
 - ・寝具乾燥・消毒及びクリーニングサービス事業
3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実 1 8
- ・いちほらファミリー・サポート・センター事業
 - ・出産前後家事等サポート事業
 - ・生活支援体制整備事業
 - ・居宅介護支援事業
 - ・送迎ボランティアサービス事業
 - ・福祉カー貸出受託事業
 - ・生活福祉資金貸付事業
 - ・療養資金貸付事業

- ・福祉資金貸付事業
- ・応急法外援護事業

みんなの顔がつながる仕組みづくり

1. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化 26
 - ・地区行動計画の策定・推進
 - ・小域福祉ネットワーク連絡会議
 - ・地区社協連絡会

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成 28
 - ・人材育成事業
2. ボランティアセンター機能の強化 29
 - ・ボランティアセンター運営事業
3. 地域福祉推進体制の強化 34
 - ・民生委員活動推進事業
 - ・共催・後援等事業

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業 37
 - ・老人福祉センター
 - ・姉崎保健福祉センター
 - ・三和保健福祉センター
 - ・南部保健福祉センター

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期 日	内 容
4月11日	1. 理事会及び評議員会の予定議案について 2. 2019年度会議日程について
5月16日	1. 令和元年度第1回理事会及び評議員会上程議案について 2. 住民主体の生活支援補助事業について
6月11日	1. 令和元年度第1回評議員会上程議案について 2. 令和元年度第2回理事会上程議案について 3. 令和元年度市原市社会福祉協議会福祉顕彰事業について
7月11日	1. 市原市地域福祉パートナーシッププランの改訂に係る協力について 2. 市原市相談機関連絡会について 3. 成年後見制度専門相談について
8月8日	1. 令和2年度の人事案件について 2. 指定管理申請スケジュールについて
10月11日	1. 令和元年度第3回理事会上程議案について 2. 令和元年度第2回評議員会の開催について
11月15日	1. 令和元年度第3回理事会について
12月12日	1. 令和元年度第4回理事会、第2回評議員選任・解任委員会及び懇親会について 2. 令和2年3月度の会議日程について
1月9日	1. 令和元年度第4回理事会、第2回評議員選任・解任委員会及び懇親会について
2月13日	1. 「通いの場」事業について 2. 令和元年度福祉顕彰事業について 3. 後見関連業務の実施について
3月12日	1. 新型コロナウイルス感染症予防に伴う会議の開催方法について 2. 令和元年度第5回理事会及び第3回評議員会上程議案について 3. 次年度会議日程について

(2) 理事会及び評議員会

項目	期日	議案等
監査	5月17日	平成30年度分監査
第1回理事会 (14名出席)	6月6日	議案第1号 平成30年度事業報告の承認について 議案第2号 平成30年度決算の承認について (監査報告) 議案第3号 評議員候補者の選任について 議案第4号 評議員会の開催について
第1回評議員会 (41名出席)	6月25日	議案第1号 平成30年度事業報告の承認について 議案第2号 平成30年度決算の承認について (監査報告) 議案第3号 役員の選任について
第2回理事会 (16名出席)	6月27日	議案第1号 会長の選任について 議案第2号 副会長の選任について 議案第3号 常務理事の選任について
決議事項提案	12月	決議事項提案 令和元年度第1回補正予算(案)について
第3回理事会 (13名出席)	11月28日	議案第1号 令和元年度第1回補正予算(案)について 議案第2号 市原市社会福祉協議会会長表彰状、感謝状の贈呈者の承認について 議案第3号 評議員選任、解任委員の選任について 議案第4号 評議員候補者の選任について 議案第5号 令和元年度第2回評議員会の開催について
第4回理事会 (18名出席)	1月24日	議案第1号 専決処分承認を求めることについて 議案第2号 評議員候補者の選任について 議案第3号 福祉サービスにおける苦情解決第三者委員の委嘱について 議案第4号 令和元年度第3回評議員会の開催について
決議事項提案 (理事)	3月	決議事項提案1. 令和元年度第2回補正予算(案)について 決議事項提案2. 寝具乾燥・消毒及びクリーニングサービス事業実施要綱の廃止について 決議事項提案3. 成年後見制度専門相談支援事業の新規受託について 決議事項提案4. 法人後見受任事業の実施について 決議事項提案5. 定款変更について 決議事項提案6. 事務局規程の一部改正について 決議事項提案7. 職員の職の設置及び職務分類に関する規程の一部改正について 決議事項提案8. 処務規程の一部改正について 決議事項提案9. 会計規程の一部改正について 決議事項提案10. 令和2年度事業計画(案)について 決議事項提案11. 令和2年度予算(案)について 決議事項提案12. 令和元年度第3回評議員会の開催について
決議事項提案 (評議員)	3月	決議事項提案1. 令和元年度第2回補正予算(案)について 決議事項提案2. 成年後見制度専門相談支援事業の新規受託について 決議事項提案3. 法人後見受任事業の実施について 決議事項提案4. 理事の選任について 決議事項提案5. 定款変更について 決議事項提案6. 令和2年度事業計画(案)について 決議事項提案7. 令和2年度予算(案)について

(3) 常任委員会

期 日	内 容
9月30日	1. 災害対策会議

(4) 評議員選任・解任委員会

期 日	内 容
6月11日	1. 評議員の選任について
1月24日	1. 評議員の選任について

(5) 災害対策会議

期 日	内 容
9月19日	1. 対応状況、検討中の取り組みについて 2. 今後の生活支援の取り組みについて
9月30日	1. 災害ボランティアセンターの活動状況について 2. 今後の災害に備えた連携の仕組みづくりについて

(6) 福祉顕彰事業

市内の社会福祉の増進に寄与された方々に対して、表彰状及び感謝状の贈呈をした。また、台風災害において本市の復旧・復興に貢献をされた方々に対して、感謝状を贈呈した。

期 日	2月22日(土)
場 所	市原市市民会館小ホール ※新型コロナウイルス感染防止のため開催を中止。
内 容	1. 表彰状及び感謝状贈呈 (1) 表 彰 状 60名、2団体 (2) 感 謝 状 125名、89団体 2. 記念講演 テーマ「はじめての成年後見制度」 講 師：酒井 伸明 氏

成 果	災害を踏まえて、各会議体において市社協の役割や求められること等、それぞれの立場から意見が出され、活発な議論となった。また、今後の災害に備え、市社協・地区社協・地域間における連携のあり方等、その仕組みづくりの必要性を共通理解、認識することができた。
課題・方向性	地区社協連絡会を通じ、各地区における災害時の振り返りや今後の対応等を検討いただきながら、市社協と連携した取り組みが進められるよう、その仕組みづくりを進める。

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の活動・事業への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

79,000部を年2回(町会世帯数)、98,350部を年2回(新聞折込み)、8,000部(災害VC号外)を年1回(町会回覧数)市内各世帯に配布した。

号 数	229号	230号	231号	232号	号外
発行日	5月20日	9月5日	1月20日	3月5日	11月20日
頁 数	4頁	4頁	4頁	4頁	4頁

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民の皆様に役立つ福祉情報を発信するため、情報提供の迅速化を図った。

市原市社会福祉協議会ホームページ：<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

(3) 新規 SNS の運営

新たにソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を導入し、より多くの皆様に迅速かつ適切な情報を発信した。

Twitter（ツイッター）：https://twitter.com/ichihara_ytb

Facebook（フェイスブック）：<https://www.facebook.com/ichiharayotuba/>

成 果	災害対応のため SNS の導入を繰上げ、公開したところ、ホームページ及び SNS へのアクセスが約 20 万件あり、ボランティア募集や活動報告等周知できたことにより、安定した災害支援を行うことができた。
課題・方向性	職員全員が広報活動への意識を持ち、地域の様々な取り組み等を周知する体制を作り、社協の見える化・見せる化を進める。

人財育成及び人材確保

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

研 修 名	研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
新規採用職員研修	社協組織及び事業等、職員に必要な知識の習得	5月1日 7月1日	事務局	2名 1名
災害ボランティアセンター設置運営訓練	災害ボランティアセンター及びサテライト災害ボランティアセンター設置運営訓練、関係機関との連携強化	2月11日	市原市姉崎保健福祉センター	37名

(2) 職場外研修

研 修 名	研 修 内 容	期 間	研修場所	受講者数
千葉社協職員連絡協議会第1回合同研修会	事業計画を作成するにあたり、ロジックモデルを活用し、組織内の合意形成と地域課題の解決を加速させる方法を通して、財源の確保等のノウハウを身に付ける	4月15日 6月10日 7月4日	千葉市民会館	2名
市社協合同研修	社会福祉協議会職員に求められる価値・知識・技術・学ぶべきこと・得るべき情報	7月13日	浦安市文化会館 会議室	3名
千葉県内市町村社会福祉協議会事務局長会第2回研修会	社会福祉協議会における人事・労務管理の現状と課題、働き方改革への対策	9月4日	県社会福祉センター	2名
令和元年度地域福祉コーディネーターリーダー研修会	住民と共同する個別支援ワーカーの役割と活動実践の視点リーダーの養成	9月5・6日	タイム24ビル	3名
成年後見制度利用促進体制整備研修（基礎研修）	成年後見利用促進に向け、本人意思決定支援を前提とした権利擁護支援及び中核機関のあり方	9月17～19日	東京ベイ 幕張ホール	1名
千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修	コミュニティソーシャルワークの手法を学び、必要な知識、技術を身につける	10月26・27日 12月7・8日 12月23日	千葉県経営会館 幕張メッセ	3名

「地域福祉活動計画のつくり方・すすめ方」研修会	地域福祉活動計画策定支援マニュアルを活用した計画のつくり方・すすめ方について	12月4日	県社会福祉センター	3名
日常生活自立支援事業専門員実践力強化研修会Ⅱ	社会福祉実践における権利擁護の重要性、制度理解を通じ、相談援助活動の展開手法を学び専門員の資質向上を目指す	1月29～31日	ロフォス湘南	1名
成年後見制度利用促進体制整備研修（応用研修）	中核機関の役割における地域連携ネットワークの構築、本人にふさわしい利用に向けた検討と専門的判断を身に付ける	2月4～6日	ホテルイースト21 東京	2名

成 果	災害の影響により、十分な研修を行うことができなかったが、災害ボランティアセンターの設置運営を実践したことにより災害時における取組みを理解することができた。
課題・方向性	チーム（所属）会議の見直しや職場内研修を積極的に行い、職員の育成に努める必要がある。また、関係機関との連携の強化のためにも、職場外研修を通して、情報や課題の共有と良好な関係作りに努める必要がある。

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

① 積立金

種 別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	5,228,428円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000円
定期預金	J Aバンク	10,000,000円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000円
定期預金	京葉銀行	10,000,000円
定期預金	君津信用組合	10,000,000円
積 立 合 計		55,228,428円

② 債 券

種 別	銘 柄 名	金額
公募地方債	政府保証債第284回日本高速道路保有債務返済機構債	100,000,000円
公募地方債	千葉県第10回公募公債	100,000,000円
合 計		200,000,000円
社会福祉基金総額		255,228,428円

(2) 基金取崩し財源の活用

① 地区社協拠点等整備事業

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。（整備順）

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	ちはら台	0円	240,000円	5	三 和	0円	34,480円
2	市 津	0円	240,000円	6	姉 崎	0円	19,463円
3	辰巳台	0円	240,000円	7	国分寺台	0円	24,149円
4	南 総	0円	88,047円	8	有 秋	62,320円	19,462円
拠点整備費合計：1地区 62,320円（H25度からの累計 6,853,050円） 維持管理費合計：8地区 905,601円							

② 事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000円×11地区=1,760,000円	1地区年額160,000円

③ 地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため、車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	159,576円（13,176円/月×6回） （13,420円/月×6回） ※1,464円については令和2年度予算で対応	コーディネーター支援及び買い物代行として

社会福祉基金取崩し額合計	2,887,497円
--------------	------------

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協の活動支援・運営支援

小域福祉ネットワークや地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスをを行う等積極的な支援に取り組んだ。

(1) 小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和63年6月26日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市津	旧市東第二小学校区	市東第二小区小域福祉ネットワーク	平成24年10月3日	○
	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成25年11月27日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成25年11月28日	○
ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成18年7月15日	○
	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成20年12月1日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成22年11月1日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成24年3月30日	○
国分寺台	国分寺台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成19年2月24日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成22年2月19日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成24年10月30日	
姉崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成19年2月21日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成21年4月25日	
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成22年8月1日	○
有秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成24年1月23日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成24年3月14日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成24年3月21日	○
三和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成20年8月2日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成20年8月2日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成20年8月2日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成20年8月2日	○

南 総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	内田小学校区	内田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	旧平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○
加 茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五 井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	○
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	
市 原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○
	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	
合 計		44 団体 (46 学校区)		実施 36 団体 (38 校区)

小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
R1 度	371 日	5,571 日
H30 度	402 日	6,027 名
増 減	△31 日	△456 名

成 果	各種会議や事業等に、地区担当職員が積極的に参加し、地域の課題解決に向けた助言や先駆的な取り組み事例の情報提供等を継続的に行うことで、活動分野の拡充に向けた支援に繋がった。
課題・方向性	法改正等によって、地域に求められる役割と期待がこれまで以上に増しており、地域では負担感が大きくなっている。専門知識を有する地区担当職員が的確な情報提供や他市等の先駆的事例等の提供、担い手の拡充策など必要な支援を行うなどの対応を図りながら負担感を軽減し、活性化を図っていく必要がある。

(2) 地区社協事業一覧

		辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	ふれあいサロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連携・協働体制づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高齢者地域支え合い事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・開拓的 事業	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	○	○			○	○				
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)	○	○				○					
	相談支援事業	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	人材育成事業	○	○	○	○				○			
	災害支援ボランティア事業			○	○	○	○	○	○			

地区社協における各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
R1 年度	523 日	5,211 名
H30 年度	443 日	5,299 名
増 減	80 日	△88 名

成 果	昨年度より始まった地区行動計画推進委員会では、地域福祉計画見直しにかかる意見交換の場や、ワークショップによる地域の意見集約の場として活用され、改めて地域の課題及び必要なニーズ等の把握に繋がった。また、地区行動計画と連動する第2層協議体においては、生活支援コーディネーターを中心に、地域の課題解決に向けた具現化が進められている。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、本市の中域福祉圏の推進役である地区社協の役割と期待は、益々大きくなっている。専門知識を有する地区担当職員が的確な情報提供や他市等の先駆的な事例提供、担い手の拡充策等必要な支援を行い、対応を図る必要がある。また、今後、求められる取組みに対応するために地区社協の組織力・運営基盤の強化を図る必要がある。

2. 地域づくりを支援する事業の充実

(1) ふれあいサロン事業の推進

① いきいきサロン

高齢者等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	3会場	35日	1,064名	302名
市津	10会場	81日	2,580名	381名
国分寺台	3会場	15日	474名	164名
ちはら台	2会場	18日	587名	312名
姉崎	2会場	20日	916名	428名
有秋	2会場	16日	339名	197名
南総	14会場	91日	2,117名	571名
加茂	1会場	10日	403名	40名
五井	4会場	20日	555名	235名
市原	7会場	144日	2,695名	659名
合計	48会場	450日	11,730名	3,289名
H30度	51会場	515日	13,804名	4,111名
増減	△3会場	△65日	△2,074名	△822名

② はつらつサロン

心身障がい者（児）等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
国分寺台	1会場	2日	45名	7名
ちはら台	1会場	11日	157名	105名
合計	2会場	13日	202名	112名
H30度	2会場	10日	361名	58名
増減	—	3日	△159名	54名

③ 子育てサロン

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	2会場	105日	917名	354名
市津	1会場	6日	154名	55名
国分寺台	1会場	12日	229名	70名
ちはら台	3会場	45日	664名	260名
姉崎	1会場	11日	627名	187名
有秋	1会場	9日	322名	42名
三和	1会場	9日	202名	153名
南総	1会場	1日	20名	15名
五井	1会場	9日	579名	192名

市原	4会場	59日	1,104名	325名
合計	16会場	266日	4,818名	1,653名
H30度	17会場	456日	7,097名	2,354名
増減	△1会場	△190日	△2,279名	△701名

サロン事業 合計	年度	開催日数	延参加者数	延支援者数
	R1度	729日	16,750名	5,054名
	H30度	981日	21,262名	6,523名
	増減	△247日	△4,512名	△1,469名

成果	災害や新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動件数は減少となったが、事業全体として、66会場、延べ16,750名が参加(利用)し、子育て家庭や障がい、高齢者の孤立防止及び集い・交流の場として市民の方々に利用いただくことができた。
課題・方向性	現在は対象者を限定した事業となっていることから、地域共生社会づくりの視点を踏まえて、全ての地域住民を対象とした交流の場づくり(仲間づくり)への事業展開に向けた検討・見直しをしていく必要がある。

(2) 子どもの居場所

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	11日	267名	85名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行い世代間交流を図った。(京葉教育文化センターとの共催) 【名称：トイトイ食堂】
国分寺台	12日	96名	123名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。 【名称：地域食堂コンパス】
五井	1日	175名	30名	Amity市原と五井地区社協の両者主催事業として、地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として試行的に実施した。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。

子どもの居場所 合計	年度	開催日数	参加者数	支援者数
	R1度	24日	538名	238名
	H30度	13日	134名	135名
	増減	11日	404名	103名

成果	食事等を通じ、子どもたちの健全育成や人とのふれあいを学ぶ機会へ繋がる等、少子化、核家族化による子育て環境の変化に伴う新たな福祉コミュニティづくりの拠点として地域の方が主導となって実施していただき、先駆的な取り組みとなった。
課題・方向性	全国的なニーズを踏まえ活動への期待が高まっていることから、本会でも行政等と協議しながら活動の拡充に向けた支援方策の検討に努める必要がある。

(3) 安心生活見守り支援事業の推進

① 安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯等の社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声掛けを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

【地区別実績】

地区	見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数	
辰巳台地区	94名	122名	1,500回	
市津地区	50名	81名	550回	
ちはら台地区	19名	28名	492名	
国分寺台地区	55名	36名	845回	
姉崎地区	201名	230名	2,440回	
有秋地区	22名	29名	199回	
三和地区	129名	103名	2,153回	
南総地区	165名	280名	2,518回	
加茂地区	91名	110名	1,075回	
五井地区	157名	127名	2,010回	
市原地区	206名	226名	5,389回	
年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R1度	36 ネットワーク (38 小学校区)	1,189名	1,372名	19,171回
H30度	34 ネットワーク (36 小学校区)	940名	1,119名	13,584回
増減	2 ネットワーク	249名	253名	5,587回

成果	ネットワーク役員と地区担当職員が打合せや会議等を重ねた結果、今年度新たに白金小学校区スマイルNWと青葉台小学校区小域福祉NWの2校区で実施することができた。また、安心訪問員を対象とした基礎研修会やフォローアップ研修会など、継続、安定した事業活動を支援することにより、安心訪問員約240名の増加(前年比)につながった。
課題・方向性	未実施校区に対し、事業の必要性と意義について関係者の理解を求めていく。また、見守り以外の支援を必要とする希望者に対しては、関係機関等と連携しながら、必要な支援活動に結び付けられる体制を構築する必要がある。

② 安心生活見守り支援事業安心訪問員交流会

安心生活見守り支援事業関係者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の見守り活動の充実に繋げることを目的に実施した。

期 日	1月14日(火)
場 所	市原市消防局 2階講堂
参加者	76名
内 容	第1部 実践発表 ・わかば福祉ネットワーク ・国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク 第2部 情報交換(グループワーク) テーマ「見守り活動について語り合おう ～災害を体験して、今思うこと～」

成果	市内の活動実践者やネットワーク関係者を一堂に会し、実践発表や意見交換(グループワーク)を実施した。情報交換会では「災害」をテーマとして掲げ、災害を体験し、改めて平常時の見守り活動の重要性について、共通理解を図るとともに、未実施の小域福祉ネットワークへの意識醸成を図った。
課題・方向性	交流会を通じ、見守り支援活動について活動を通じて見えてきた諸課題の分析や集約を行い、課題対応に向けた方策について行政と検討協議に努めていく。

(4) 福祉バザー事業・歳末たすけあい募金事業の推進

歳末たすけあい運動への協力として、福祉バザー、歳末たすけあい募金を実施した。

① 福祉バザー

地区	会場	売上金	寄附金等	合計
辰巳台	辰巳公民館	217,820円	26,211円	244,031円
市津	市津公民館	321,020円	287,253円	608,273円
ちはら台	ちはら台支所駐車場	66,620円	0円	66,620円
有秋	有秋公民館	250,990円	21,530円	272,520円
三和	三和コミュニティー	160,810円	56,900円	217,710円
南総	南総公民館	443,415円	150,353円	593,768円
合計		1,460,675円	542,247円	2,002,922円
前年比		△712,981円	24,121円	△688,860円

年度	会場数	参加者数	支援者数
R1度	6会場	2,150名	520名
H30度	7会場	2,963名	660名
増減	△1会場	△813名	△140名

② 歳末たすけあい募金

地区名	募金額	前年比
国分寺台	394,552円	28,442円
加茂	145,000円	△2,300円
五井	1,042,700円	3,409円
市原	812,610円	120,450円
姉崎	497,950円	497,950円
街頭募金	12,000円	-
イベント募金	145,454円	36,293円
合計	3,050,266円	684,244円

成果	災害被害の影響で、1地区福祉バザーが中止となってしまった。各地区で献品の数が減少傾向にある中で、役員や関係機関の努力と協力により福祉バザーを開催することが出来た。
課題・方向性	バザーに代わる新たな財源確保策について検討していく必要がある。また、募金については減少傾向にあることから、募金増額についても検討していく必要がある。

(5) 歳末見舞金配布事業・地域福祉支援事業の推進

歳末たすけあい事業の一環として歳末にあたり、だれもが明るいお正月を迎えられるよう、ボーダーライン世帯に対して見舞金を配布した。また、歳末の時期に支援を必要とする方々が安心して暮らすことができる地域社会づくりの取り組みを推進するため、地域福祉活動を行う団体に助成を行った。

内 容	事業実績(R1 度)	H30 度	前年度比較
生活困窮世帯見舞金	2,136,000 円 (1 世帯あたり 8,000 円×267 世帯)	2,040,000 円	96,000 円
地域福祉支援事業	1,484,000 円 (38 団体)	1,445,000 円	39,000 円
合 計	3,620,000 円	3,485,000 円	135,000 円

成 果	歳末の時期に地域住民の交流促進及び地域福祉活動や在宅福祉サービスへの理解促進を図ることを目的とした地域福祉支援事業を 38 団体 (1 団体増) が実施した。
課題・方向性	歳末たすけあい運動の一環としての事業目的を整理し、金銭的な支援 (歳末見舞金配布事業) から事業による支援 (地域福祉支援事業) への移行を進めることで、地域による日常的、継続的な支援の拡充を図っていく。

(6) 高齢者通いの場推進事業 (市原市補助事業)

高齢者を中心とした地域住民が日常的に交流 (社会参加) やふれあい、介護予防の場となる「通いの場」(月 1 回程度) の推進を図った。

地 区	会場数 (申請団体数)	開催回数	参加人数(延べ)	補助金決定額
辰巳台	4 会場	42 回	627 名	308,846 円
市 津	4 会場	41 回	586 名	298,520 円
国分寺台	11 会場	264 回	3,241 名	1,611,303 円
ちはら台	15 会場	238 回	2,843 名	1,264,123 円
姉 崎	10 会場	128 回	2,854 名	970,298 円
有 秋	4 会場	39 回	659 名	413,124 円
三 和	29 会場	330 回	6,184 名	2,201,015 円
南 総	20 会場	336 回	4,185 名	1,468,348 円
加 茂	14 会場	168 回	1,773 名	1,496,728 円
五 井	6 会場	112 回	1,856 名	703,207 円
市 原	65 会場	1,424 回	18,143 名	6,087,667 円
合 計	182 会場	3,122 回	42,951 名	16,823,179 円

成 果	市内 182 会場で「通いの場 (月 1 回)」が実施され、高齢者の社会参加や介護予防に資する活動の拡充が図られた。会場数 182 会場 (22 会場増) 延べ回数 (日数) 3,122 回 (1,265 回増)、参加者数 42,951 名 (14,510 名増) であり、大変多くの方に参加いただいた。
課題・方向性	月 1 回高齢者通いの場推進事業が終了し、次年度からより介護予防に資する活動及び週 1 回通いの場事業への移行を目的とした新たな事業「通いの場移行促進事業 (チャレンジ事業)」が始まる。市社協・地区社協として可能な範囲で事業協力をし、市が目指す高齢者が元気な街づくりの一助となるよう努めていく。

(7) 災害支援ボランティア事業の推進

災害にも強い地域づくりに向けて、地域特性に応じた防災・減災活動（の学習）に取り組んだ。

地区	開催日	参加者数	支援者数	内容
南 総	7月28日 1月22日	74名	24名	身近なもので作る防災グッズ制作、災害についてのパネル展示による啓発活動を行うとともに、地域住民を対象に「防災力UP講座」を実施し防災に関する意識醸成を行った。
国分寺台	9月3日	131名	38名	公益社団法人SIL災害ボランティアネットワークから講師を招き、中学生を対象に避難所運営ゲーム、簡易トイレの作成などを実施した。
姉 崎	1月25日	33名	11名	地区社協理事や一般参加者を対象に、今年度発生した台風15号及びびに自然災害をテーマとした意見交換を行い、地区内の防災に関する意識醸成を図った。
有 秋	6月23日	26名	10名	市原市危機管理課より「有秋地区における災害リスク」について講義をいただき、町会長会、地区社協、小域福祉ネットワークなど有秋地区内の関係団体で災害をテーマとした意見交換を行った。
ちはら台	2月8日	37名	6名	地区社協、自治会、自主防災関係者を対象にD I G訓練を実施し、地区内の状況把握及び防災に関する意識醸成を図った。
三 和	1月28日	33名	7名	地区社協理事や一般参加者を対象に今年度発生した台風15号及びびに自然災害に関する意見交換を行い、住民主体の防災活動について再認識を図った。

年 度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R1度	6地区	7日	334名	96名
H30度	6地区	8日	820名	137名
増 減	—	△1日	△486名	△41名

成 果	開催会場が減ったことで参加者数は減少したが、これまでの講義形式の研修だけでなく、実際の災害の経験を踏まえた地域での活発な意見交換や、自分たちの地区に特化した防災啓発としたことで、改めて住民同士の「支え合い、助け合い」の必要性について考える場となった。
課題・方向性	今年度、実際に被災地となったことで、これまで以上に災害についての関心が高まっていることから、より住民同士の「支え合い、助け合い」の醸成という視点で事業を展開していただけるように提案していきたい。

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実

(1) いちはら総合相談・生活支援事業

誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまちづくりを目指して、住民が抱える生活課題の解決に向けて、包括的かつ重層的な相談支援を行い、課題の解決に向けた個別支援や関係機関との連絡調整を行った。

年 度	生 計	職 業 生 業	教 育 青 少 年	障 がい 者 福 祉	冠 婚 葬 祭	療 養 健 康	生 活	その他	合 計
R1度	432件	3件	229件	14件	3件	11件	121件	65件	878件
H30度	492件	3件	173件	16件	3件	17件	101件	58件	863件
増 減	△60件	0件	56件	△2件	0件	△6件	20件	7件	15件

※各種貸付事業、ファミリー・サポート・センター事業、出産前後家事等サポート事業における相談も含む。

(2) 各地区における相談事業

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関等へのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内容等
辰巳台	9日	1名	18名	日常生活上の悩みや困りごとに対し、地区住民が身近に相談できる場所を提供することを目的し、辰巳公民館会議室にて毎月第1日曜日13時～16時に開催。
市津	102日	59名	204名	毎週月・水曜日の10時～12時、拠点を活用した相談支援活動を実施。
国分寺台	101日	124名	183名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	232日	22名	275名	地区社協事務所にて相談ブースを設け、週5回、10時～12時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月1回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉崎	11日	8名	22名	毎月第1水曜日13時～16時に地区社協理事がアネッサ相談室にて実施。
有秋	37日	0名	74名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎週月曜日10時～12時に公民館にて民生児童委員、地区社協関係者が対応。
三和	9日	11名	153名	子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
南総	42日	4名	60名	ふれあいいきいきサロン開設時、南部保健福祉センターにおいては毎週土曜日13時～15時に相談窓口（第3土曜日は障がい者専用窓口）を併設。
五井	17日	3名	34名	ふれあいいきいきサロン開設時に、五井公民館の一部屋において誰でも気軽に相談に来られる場として開設。

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R1度	9地区	560日	232名	1,023名
H30度	9地区	723日	298名	1,233名
増減	—	△163日	△66名	△210名

成果	災害や新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から支援件数は減少となったが、地域の相談窓口では、相談者への安心感の提供に寄与するとともに、困難ケースなどにおける専門機関への「つなぎ・橋渡し役」として市民の課題解決の一助となった。また、ちはら台地区の専門機関と連携して行う総合相談窓口等地域の独自性により、充実に繋がっている。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、今後構築される相談体制の中で、地域の身近な相談窓口として果たす役割に大きな期待が寄せられている。今後、関係機関等と連携しながら、必要な支援活動に結び付けられる体制を構築していくために、市とも連携を取りながら、地区での相談のあり方等について再検討していく必要がある。

2. 地域生活を支援する事業の充実

(1) 日常生活支援事業の推進

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動を行った。

① 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上の課題解決のために取り組む住民参加型在宅福祉サービス等の個別支援活動

地区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	332日	1,387名	1,495名	辰巳台地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常支援、子育て支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい辰巳ねこの手】
ちはら台	196日	196名	201名	ちはら台地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
三和	119日	158名	478名	三和地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
有秋	98日	98名	479名	有秋地区内の一部町会にて、一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。【名称：くらしのささえあい】
市津	70日	78名	183名	市津地区に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：市津 まごの手】

年度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R1度	5地区	815日	1,917名	2,836名
H30度	5地区	785日	1,617名	1,951名
増減	—	30日	300名	885名

② 事業化・活性化推進サービス

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り組みとして部分的に支援する活動

地区	開催日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	23日	220名	25名	高齢者を主な対象として、社会福祉施設（辰巳萬緑苑）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
市津	22日	408名	124名	65歳以上の一人暮らし高齢者、65歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
有秋	16日	223名	46名	65歳以上の一人暮らし高齢者、障がい者で自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（グランモア和光苑）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。

年度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R1度	3地区	61日	851名	195名
H30度	3地区	60日	976名	172名
増減	—	1日	△125名	23名

※災害や新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から延利用者数は減少

成果	市内5地区で住民相互による支え合い・助け合いの活動が行われ、利用者も増加傾向にあり、充実した事業展開を図ることが出来た。
課題・方向性	今後は、今年度より市で制定された「市原市住民主体訪問型サービス」の活用を基本に、現行サービスに限らず、地域ごとの特性や課題を踏まえ、地域の実情に応じた新たな個別支援・生活支援サービスを開発していく必要がある。

(2) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

【対応実績】

① 訪問・相談支援件数

月	契約者数	計画に基づく 訪問支援件数	緊急(臨時) 訪問支援件数	相談支援件 数	支援合計	H30年度	増減
4	58件	65件	25件	206件	296件	195件	101件
5	58件	65件	5件	191件	261件	202件	59件
6	60件	67件	17件	176件	260件	237件	23件
7	60件	67件	18件	199件	284件	274件	10件
8	62件	72件	15件	163件	250件	249件	1件
9	61件	73件	7件	128件	208件	205件	3件
10	60件	72件	29件	189件	245件	256件	△11件
11	61件	73件	25件	139件	237件	242件	△5件
12	62件	74件	13件	175件	262件	241件	21件
1	63件	75件	8件	134件	217件	249件	△32件
2	62件	76件	1件	126件	203件	270件	△67件
3	64件	78件	2件	154件	228件	230件	△2件
合計	731件	857件	165件	1,929件	2,951件	2,850件	101件

② 新規相談・利用件数

区 分	高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合 計	H30年度	増減
新規相談件数	99件	3件	7件	1件	110件	73件	37件
新規相談者支援回数	284件	4件	11件	7件	306件	296件	10件
新規利用件数	17件	0件	0件	1件	18件	23件	△6件

成 果	限られた職員体制の中ではあるものの、契約件数を延ばしている。多問題を抱えるケースも多いが、関係機関と連携し、日常生活を支えることができた。
課題・方向性	現体制では全ての相談に対応することが難しい状態であり、利用待機者が多く、3~4ヵ月待ちの状態である。成年後見制度関連事業の実施も含め、体制強化を図る。

(3) 成年後見制度相談事業（市原市委託事業）

① 成年後見制度が市民の方にとってより身近な制度となるよう弁護士による専門相談を実施した。

【会場：市原市社会福祉協議会（事務局） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談者数	3名	3名	3名	3名	1名	3名	3名	3名	3名	3名	2名	2名	32名

【会場：市原市南部保健福祉センター（年2回） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	6	10	計
相談者数	3名	1名	4名

※1 相談者1名あたりの相談時間：60分

※2 1日の相談枠数：3名

- ② 法律的な相談を必要としない一般相談を、職員による後見制度の概要や申立書類の書き方についての相談を実施した。

相談者数	電話相談	窓口相談	訪問相談	合計
	18名	21名	3名	42名

成果	弁護士相談においては、1日3人の枠であるが、突然のキャンセル以外は毎回予約が埋まる状況で、制度利用の必要性や、相続問題等の法的問題について弁護士による助言、指導が行われた。弁護士相談を利用しない一般相談についても、職員が電話、窓口対応、来局が困難な方は訪問し住民の相談に応じた。
課題・方向性	次年度から「(仮)後見支援センター準備室」を設置し、相談事業の拡充に加え、広報・啓発及び法人後見受任業務を推進していく。

(4) ホームケアサービス事業

在宅高齢者や心身障がい者、母子・父子家庭等で公的な福祉サービスで対応できない家事援助等の支援を必要としている方を対象に、住民参加型の有償生活支援サービスを提供し、住民相互の支え合い・助け合い活動の増進を図った。

・活動状況

	利用者数			活動協力会員数			活動日数			活動時間数		
	1年度	30年度	増減	1年度	30年度	増減	1年度	30年度	増減	1年度	30年度	増減
年間計	1名	10名	△9名	1名	10名	△9名	1日	12日	△11日	2時間	22時間	△20時間

成果	前年度に引き続き、福祉諸制度の改正に伴う地域共生社会づくりなどを踏まえ、住民相互の支え合い・助け合い活動の活性化に向け、本事業の推進体制の見直しを図ることとする。
課題・方向性	

(5) 寝具乾燥・消毒及びクリーニングサービス事業 (令和元年度末を以って事業終了)

おおむね65歳以上の寝たきり高齢者、一人暮らし高齢者、高齢者世帯及び重度心身障がい者を対象に、保健衛生の向上と福祉の増進を図ることを目的として、日常使用している寝具の乾燥・消毒(年1回のクリーニングを9月に実施)を毎月1回実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	H30度	増減
利用者	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	13名	13名	0名

成果	訪問介護や通所サービスなどの公的サービスや、民間事業者によるクリーニングサービスの拡充により事業開始時と比べ在宅高齢者等の衛生環境が著しく向上したことから、本事業の役割が完了したものと判断し、今年度末をもって事業廃止とした。
課題・方向性	

3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実

(1) 子育て支援活動の充実

① いちはらファミリー・サポート・センター事業 (市受託事業)

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かり等、住民相互(協力会員、利用会員)による援助活動を通じた子育て環境(仕事と育児の両立)を支援するため、いはらファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年度	相談件数(延数)	利用会員登録者数	協力会員登録者数	両方会員登録者数
R1度	117件	532名	122名	28名
H30度	76件	471名	122名	21名
増減	41件	61名	0名	7名

【活動状況】

(令和2年3月31日現在)

活動内容	月													R1 度	H30 度	増減
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
保育所・幼稚園の登園前の預かり	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12	11	0	24 件	168 件	△144 件	
保育所・幼稚園の送り	4	5	6	1	1	4	5	3	4	17	14	5	69 件	197 件	△128 件	
保育所・幼稚園の迎え	7	5	4	0	3	14	12	10	6	11	10	7	89 件	103 件	△14 件	
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	7	2	3	0	0	1	3	4	5	8	5	3	41 件	50 件	△9 件	
学童の放課後の預かり	7	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	10 件	13 件	△3 件	
放課後児童クラブの迎え	8	3	8	5	8	3	2	2	3	3	0	1	46 件	91 件	△45 件	
放課後児童クラブ終了後の預かり	8	3	8	5	1	3	1	2	3	3	0	1	38 件	76 件	△38 件	
子供の病気等の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0 件	0 件	0 件	
子供の習い事等の場合の援助	2	9	8	5	4	7	9	9	17	13	16	10	111 件	204 件	△93 件	
保育所・学校等休み時の援助	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3 件	9 件	△6 件	
保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件	
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	2	1	4	3	11	11	4	2	0	3	3	0	44 件	0 件	44 件	
保護者等の求職活動中の援助	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4 件	0 件	4 件	
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子供の学校行事の場合の援助	1	4	1	0	0	2	1	2	2	0	0	0	13 件	18 件	△5 件	
保護者等の外出の場合の援助	1	0	2	6	0	2	1	3	1	2	3	5	26 件	17 件	9 件	
保護者等の病気、その他休の場合の援助	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	2	7 件	9 件	△2 件	
その他	12	2	3	3	1	0	2	1	6	2	0	1	33 件	67 件	△34 件	
小学校登校前の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	180 件	△180 件	
合計	60	36	48	28	30	47	41	38	49	75	70	36	558 件	1,202 件	△644 件	

成果	昨年度に引き続き、一般市民を対象とする市民大学講座の活用、市民向けの養成研修会の開催により、協力会員の確保に努めた。頻繁に利用していた会員の退会や災害、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動件数は減少となったが、活動に関するフォロー体制の強化に向けた地区ごとの協力会員交流会を開催し横の連携づくりに努めた。
課題・方向性	地区により利用会員、協力会員数に偏りがある。行政担当課と連携した積極的な広報活動の展開と、市民大学・市民向け養成講座を通じた協力会員の増強に努めたい。

② 出産前後家事サポート事業（市受託事業）

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援等を必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。

年度	相談件数 (延数)	利用者数 (実人数)	利用回数 (延数)	利用時間 (延時間)
R1 度	50 件	64 名	194 回	372 時間
H30 度	44 件	56 名	213 回	401 時間
増 減	6 件	8 名	△19 回	△29 時間

【活動状況】

(令和2年3月31日現在)

活動内容		月												R1度	H30度	増減
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
家事援助	食事の準備・後片付け	19	19	11	13	12	14	17	3	12	15	20	18	173件	156件	17件
	衣類の洗濯・補修	14	11	1	3	4	10	2	3	11	12	8	9	88件	135件	△47件
	居室等の掃除・整理整頓	21	22	9	6	10	16	9	1	7	11	14	12	138件	155件	△17件
	生活必需品の買い物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	3件	△3件
	関係機関との連絡	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4件	0件	4件
	その他必要な家事援助	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	4	0	14件	21件	△7件
	小計	54	52	21	22	26	44	33	7	30	43	46	39	417件	470件	△53件
育児援助	授乳	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3件	24件	△21件
	おむつ交換	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	3	0	9件	22件	△13件
	沐浴介助	0	0	1	2	0	1	0	1	1	4	0	0	10件	62件	△52件
	適切な育児環境の整備	0	0	0	0	2	10	6	0	1	8	6	1	34件	8件	26件
	その他必要な育児援助等	1	0	0	1	1	5	3	1	5	6	7	3	33件	35件	△2件
	小計	1	0	1	3	3	17	9	2	10	23	16	4	89件	151件	△62件
合計		55	52	22	25	29	61	42	9	40	66	62	43	506件	621件	△115件

成果	市ネウボラセンター、子育て支援センター等の関係機関と連携し対象世帯への事業周知を積極的に行うことで、支援を必要とする世帯を利用に結びつけることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から支援件数は減少となったが、育児不安を抱える母親への相談援助を通じた適切な機関への繋ぎ・橋渡しの役割を担うことが出来た。
課題・方向性	全市的なサービス提供体制の確立に向けたヘルパー事業所の開拓と、全事業所による同水準のサービス提供がなされるよう、事業者間の情報共有の場づくり等を行政担当課と連携しながら進めたい。

(2) 高齢者支援活動の充実

① 生活支援体制整備事業（市受託事業）

高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築に向け、その調整役を担う「第1層、第2層生活支援コーディネーター（SC）」と地区社協圏域の「第2層協働体」との連携・協働による「生活支援サービス等」の仕組みづくりの検討協議に努めた。

(取り組み状況)

業務項目	活動実績(会議参加及び検討回数)	
地域に不足するサービスの創出に向けた地域アセスメント	①関係機関・団体の会議参加 ・地区社協会議参加(役員会、理事会、部会、行動計画推進委員会等、地区社協連絡会(市域)への参加) ・小域福祉ネットワーク会議(役員会、定例会議、各地区、市域連絡会議等への参加) ・民生委員児童委員協議会(地区定例会、役員会、市域理事会部会会議、研修等への参加) ・各種関係会議(地区町会等関係諸団体への会議、住民参加型在宅福祉サービス実践団体会議等への参加) ②行政・関係機関等との連絡調整(県、市関係各課等との連絡調整会議等への参加)	第1層 SC 41回 第2層 SC 254回(全地区) 第2層 SC 324回(全地区) 第1層 SC(市域)4回 第2層 SC 123回(全地区) 第2層 SC 23回(全地区) 第1層 SC(広域)14回 第2層 SC 4回(全地区)
サービスの担い手の育成(元気な高齢者の活動の場の確保やサービスの開発)	①市民活動・地域福祉活動実践者、住民を対象とした研修会 第1層(市域)、第2層(地区社協圏域)での調整・実施 担い手確保に向けた調整・協議、アンケート調査実施	第1層 SC 7回 第2層 SC 16回(7地区)

	②既存資源の有効活用・新たなサービス開発に向けた調整協議(実践団体、第2層協議体での仕組みづくりの検討)	実践団体(4地区) 第2層SC 28回 協議体(全地区) 第1,2層SC 50回
サービス提供主体、地域関係者間の連携・協働体制の促進(ネットワークづくり)	①生活支援体制整備事業調整会議の開催(行政担当課との連絡調整、推進方策の検討) ②地域ケア会議への参加 ③市原市全域及び広域的な会議体への参加	第1層SC 7回(内1回は第2層SC参加) 第2層SC 16圏域 第1層SC 3回
第2層圏域における支援ニーズと取り組み(既存サービス等)のマッチング	①生活課題等の把握に向けた相談・個別支援マッチング ②交流・介護予防に向けた通いの場、サロン、居場所づくりの推進について検討 ③孤立防止に向けた見守り支援等の推進について検討 ④買い物支援/買い物ツアー、外出支援の推進について検討 ⑤生活支援等サービスの展開に向けた住民参加型在宅福祉サービスの実施、推進について検討 ⑥外出支援に向けた移送サービス等の検討	11地区 62ケース 8地区 218回 11地区 341回 5地区 64回 5地区 79回 1地区 12回
その他事業の推進・充実に必要な業務	①第2層協議体の運営支援 ・第2層協議体関係者フォローアップ研修 ※1月28日開催 ・第2層協議体事前打ち合わせ ・第2層協議体の開催(会議運営支援) ②第2層協議体及びコーディネーター(SC)支援 ・協議体設置及び開催に向けた第1層SCとの事前調整 ③職員連絡調整会議における連絡調整 ④職員研修会(スキルアップ研修等)の開催(四半期ごと) ⑤他市町村コーディネーターとの情報交換 ・県SC研修等参加、他市からの視察等 ⑥外部研修への参加 ・全社協主催研修、県社協・県主催研修、市社協主催研修	消防局講堂 137名(SC込) 11地区 92回 (1層SC62回対応) 11地区 50回(1層SC参加) 全地区 SC173回 第1,2層SC 11回 第1,2層SC 4回 第1,2層SC 延5名 第1,2層SC 延72名

成 果	第1層、第2層SCが連携し各地区協議体で優先して取り組むべき仕組みづくりの検討協議に着手することができた。具体的な生活支援等の仕組みを検討する地区では試行実施案の検討と併せ、ニーズ調査や担い手確保に向けた活動意識調査を実施し、元気な高齢者を活動に繋げることができた。また、専門アドバイザーによる全委員・SC対象のフォローアップ研修(講義、実践報告)を通じ意識醸成に努めることで、その後の各協議体では、具現化に向けた活発な議論がなされていた。
課題・方向性	各協議体が目指す仕組みづくりを着実に進めるためフォローアップ会議・研修を企画したが、災害、新型コロナウイルス感染症予防の観点から研修のみに留まった。次年度の初回会議まで期間が空くことから関係者のモチベーションなど意識醸成に向けた会議を早々に企画していきたい。また、当面の間、第2層SCが協議体牽引役と期待されることから、行政SCと連携しながら目指すビジョンの明確化と、その実現に向けた工程を組み立てられるような支援をしていきたい。

② 居宅介護支援事業（介護保険事業）

介護保険で要介護と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

・ケアプラン作成状況

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R1 度利用者	81	90	87	85	88	88	87	96	92	99	95	103	1,091 名	90 名
H30 度利用者	101	101	101	102	100	98	95	91	100	89	85	91	1,154 名	96 名
増 減	△20	△11	△14	△17	△12	△10	△8	5	△8	10	10	12	△63 名	△6 名

ア) 介護予防給付ケアマネジメント業務（受託事業）

市原市内の地域包括支援センターから委託を受け、介護保険で要支援と認定された高齢者等に対し、サービス提供事業者、介護保険施設、関係行政機関等と連携を図りながらケアプランを作成し、自立した生活を支援した。

・ケアプラン作成状況

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R1 度利用者	23	23	23	24	24	23	24	24	24	22	20	19	273 名	22 名
H30 度利用者	20	19	26	23	21	20	18	22	21	23	21	21	255 名	20 名
増 減	3	4	△3	1	3	3	6	2	3	△1	△1	0	22 名	2 名

イ) 要介護認定調査業務（受託業務）

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

・認定調査状況

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R1 度利用者	7	7	5	6	3	4	3	4	3	5	3	3	53 名	4 名
H30 度利用者	3	3	4	4	4	4	3	3	3	3	5	6	45 名	4 名
増 減	4	4	1	2	△1	0	0	1	0	2	△2	△3	8 名	0 名

成 果	年度初めに利用者数の減少があったが、包括支援センター、病院等に働きかけ徐々に利用者数の回復が図れた。本年度は風、水災害やウィルス感染等の自然災害が多く発生しその対応についても利用者の安全を確認する等在宅生活を支えた。
課題・方向性	安定した利用者数の受入れができるよう、包括、病院との連携を密にし、信頼関係の強化を図るとともに、資質向上に努める。また、災害時におけるマニュアルを見直し、災害時の円滑な支援体制を確保する。

(3) 高齢者・障がい者支援活動の充実

① 送迎ボランティアサービス事業

既存の交通手段での移動が困難な高齢者及び障がい者（児）等に対し、住民参加の相互援助による外出支援を行ない、社会参加の促進と地域福祉の推進を図った。

ア) 実施状況

- ・利用者 208 世帯 226 名（令和2年3月31現在登録者）
- ・協力ボランティア 41 名（ // ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R1 度	H30 度	増減	
延利用件数	50	39	51	48	47	14	42	42	40	48	33	0	454 件	595 件	△141 件	
目的別利用件数	福祉施設利用	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1 件	0 件	1 件	
	公共機関利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	2 件	△2 件	
	行事への参加	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2 件	5 件	△3 件	
	通 院	50	39	50	48	47	14	40	41	40	48	33	0	450 件	586 件	△136 件
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1 件	2 件	△1 件	

イ) 送迎ボランティア養成講座

送迎ボランティアサービス事業協力者を育成することを目的として実施。

期 日	10月8日(火)
場 所	市原市社会福祉協議会 4階 会議室
参 加 者	一般市民 7名
内 容	説明:「送迎ボランティアサービス事業について」 講義:「安全運転の心得」 講師:市原警察署交通課 斎藤 莉緒 氏 交流:送迎ボランティアの会との交流

ウ) 送迎ボランティア研修会

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として実施。

期 日	2月5日(水)
場 所	市原市社会福祉協議会 3階 会議室
参 加 者	送迎ボランティアサービス事業協力会員 16名
内 容	講話:「傾聴を学ぼう!」 講師:傾聴の会「ひだまり」代表 青木 三郎 氏 協力者間の交流会

成 果	公的・民間サービスの利用が困難な方に通院を中心とする移動支援を延454件行うことができた。(※災害ボランティアセンター開設期間及び新型コロナウイルス感染予防のため、業務中止期間有。)また、PR及び養成講座等を開催し、新規協力者6名を確保できた。
課題・方向性	引き続き、新たな担い手の確保に向けた事業PRの強化や講座の企画立案に努め、担い手の高齢化に伴う安全面の配慮から老朽化車両の代替えに関する行政との協議を進めたい。

② 福祉カー貸出受託事業(市受託事業)

心身障がい者(児)、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

ア) 利用件数

項 目	月	利用 状況	月												R1 度	H30 度	増減
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
心身障がい者(児) 及びその家族	件数		5	2	3	3	3	3	4	1	5	3	3	5	40 件	43 件	△3 件
	日数		5	2	5	3	3	3	4	1	7	6	3	5	47 日	64 日	△17 日
高齢者及びその家族	件数		0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	4 件	3 件	1 件
	日数		0	4	0	0	1	0	7	0	1	0	0	0	13 日	8 日	5 日
社会福祉団体及び 社会福祉施設	件数		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	5 件	9 件	△4 件
	日数		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	12	24 日	13 日	11 日
社会福祉 ボランティア	件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件
	日数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 日	0 日	0 日
合 計	件数		6	3	3	3	4	3	5	1	6	3	4	8	49 件	55 件	△6 件
	日数		9	6	5	3	4	3	11	1	8	6	11	17	84 日	85 日	△1 日

イ) 利用内容

項目	内 容	利用 状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合 計
心身障がい者（児）及びその家族	件数	0	0	40	0	0	0	40件
	日数	0	0	47	0	0	0	47日
高齢者及びその家族	件数	1	0	2	1	0	0	4件
	日数	7	0	5	1	0	0	13日
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	1	0	0	0	0	4	5件
	日数	4	0	0	0	0	20	24日
社会福祉ボランティア	件数	0	0	0	0	0	0	0件
	日数	0	0	0	0	0	0	0日
合計	件数	2	0	42	1	4	0	49件
	日数	11	0	52	1	20	0	84日

成 果	市担当課と連携し、利用促進に向けてこまめに協議することが出来た。介護制度や介護タクシー等の充実により、年間利用件数自体は決して多くないが、新規利用者は増加してきている。
課題・方向性	介護保険適用外の利用者等サービスの需要が高まることが想定される中、年々利用割合の減少が見受けられるため、引き続き、市担当課と連携した広報活動に努め利用促進を図る。

(4) 生活困窮者支援活動の充実

① 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、高齢者世帯に対し、民生委員・児童委員をはじめ各関係機関が助言指導を行うことにより、当該世帯の経済的自立と更正意欲の助長促進を図り、安定した生活が営めることを目的として実施した。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
R1 度	総合支援資金	1 件	1 件	1 件	330,000 円
	福祉費	36 件	12 件	12 件	6,920,000 円
	緊急小口資金	193 件	151 件	145 件	8,073,800 円
	教育支援資金	56 件	48 件	48 件	65,685,400 円
	不動産担保型生活資金	1 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	287 件	212 件	206 件	81,009,200 円
H30 度	総合支援資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	福祉費	28 件	13 件	12 件	4,566,600 円
	緊急小口資金	204 件	179 件	180 件	8,514,000 円
	教育支援資金	49 件	48 件	45 件	51,661,600 円
	不動産担保型生活資金	3 件	0 件	0 件	0 円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	284 件	240 件	237 件	64,742,200 円
前年度比較増減		3 件	△28 件	△27 件	16,267,000 円

② 療養資金貸付事業（市受託事業）

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付けを実施した。

【貸付状況】

年 度	相談件数	申 請		貸 付	
		件数	金 額	件数	金 額
R1 度	6 件	5 件	1,164,000 円	5 件	1,164,000 円
H30 度	7 件	1 件	113,000 円	1 件	113,000 円
増 減	△1 件	4 件	1,051,000 円	4 件	1,051,000 円

③ 福祉資金貸付事業（自主事業）

公的な福祉制度等に対応することができない、低所得世帯を主な対象者として、資金の貸付と必要な援助指導を与え、生活の安定と自立更正を図った。※令和元年度から貸付限度額の変更

年 度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
R1 度	応急生活費	16 件	8 件	8 件	120,000 円
	その他	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	16 件	8 件	8 件	120,000 円
H30 度	応急生活費	47 件	27 件	27 件	770,000 円
	医療費	0 件	0 件	0 件	0 円
	その他	0 件	0 件	0 件	0 円
	合計	47 件	27 件	27 件	770,000 円
前年度比較増減		△31 件	△19 件	△19 件	△650,000 円

④ 応急法外援護

低所得で、公的な福祉制度等に対応することができない方に対し、応急的な生活費として少額の資金を交付した。

※令和元年度から交付限度額の変更

R 1 度		H30 度		前年度比較増減	
件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
154 件	362,680 円	260 件	1,097,890 円	△106 件	△735,210 円

成 果	経済的な課題を抱える世帯に対し、一時的な生活の安定や公的給付への繋ぎなど、課題に応じ必要な資金援助を行うことで、その世帯の自立支援に向けた一助を担えた。複合的な課題を抱える世帯も多数見受けられることから、生活困窮自立支援機関、行政、民児協などの関係機関、団体と連携した援助に努めた。
課題・方向性	資金貸付が一時的(応急的)な援助となり、解決に至らず再来される貸付者も見受けられることから初期相談から主訴を見極め、課題解決に向けた関係機関の役割に基づく連携体制の強化に努めることが必要である。

みんなの顔がつながる仕組みづくり

1. 地区行動計画の推進[地区社協単位]

(1) 地区行動計画推進委員会の開催

地域の特性や課題に応じた地域福祉活動の推進を図るため、平成29年度から平成30年度にかけて、中域福祉圏域の推進主体である地区社協が中心となり、全11地区で「地区行動計画」を策定した。

そして、この計画の実効性を高め、確実に活動・事業を実施していくため、計画の進行管理を行う組織として「地区行動計画推進委員会」を設置し、計画の進捗状況の確認及び評価、検討を行った。

地区名	名称	設置日	R1度開催回数
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	平成31年1月22日	1回
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	平成30年12月12日	—
市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第2層協議体)	平成31年3月14日	4回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第2層協議体)	平成30年12月8日	5回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第2層協議体)	平成30年11月19日	5回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	平成31年2月19日	4回
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総台地区第2層協議体)	平成30年11月25日	4回
加茂地区	加茂地区行動計画推進委員会 (加茂地区社協理事会が機能を担う。)	平成31年2月24日	1回
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第2層協議体)	平成30年4月20日	4回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	平成30年9月30日	1回
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第2層協議体)	平成31年1月20日	4回

※「第2層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営した。(姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台地区については「第2層協議体」とは異なる組織で開催)

成果	今年度は多くの地区(計画推進委員会)が、「第2層協議体」及び「市原市地域福祉パートナーシッププランの見直しに向けた意見交換会(ワークショップ)」と一体的な会議進行であったことから、各委員それぞれが、地域課題及びこれからの地域福祉のあり方、地域共生社会の実現に向けた情報・方向性が共有された。
課題・方向性	「第2層協議体」と機能が混在する部分があることから一体的に運営した地区においては、効率的な会議開催であったが、今後、両会議体本来の役割を整理したうえで、両会議が持つ役割・機能が効果的に図られるような会議運営に向けた支援に努めたい。

2. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化

(1) 小域福祉ネットワーク連絡会議の運営

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり企画した。

期 日	3月11日(水) 【中止】
場 所	市原市消防局 2階講堂
参加者	—

内 容	災害ボランティアセンターの取り組みについて 実践発表 テーマ「災害時に備えて ～地域で今からできること～」 ・内田小学校区小域福祉ネットワーク ・明神小学校区小域福祉ネットワーク 意見交換会（グループワーク） テーマ「災害時における小域福祉ネットワークの対応について」
課題・方向性	新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、急遽会議が中止となった。次年度の会議の開催に向けて、効果的な組織運営や活動展開に関するノウハウの共有や各小域福祉圏における横の繋がりがより深められる場となるよう企画に努めたい。

(2) 地区社協連絡会の運営

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項 目	期 日	議 題
第1回地区社協連絡会	5/29	ふれあいサロン事業見直しの基本的方向性（案）について
第2回地区社協連絡会	12/24	令和2年度以降の通いの場事業について 災害時における地区社協の対応について
第3回地区社協連絡会	1/24	令和2年度以降の通いの場事業について
第4回地区社協連絡会	2/7	令和2年度以降の通いの場事業について
第5回地区社協連絡会	2/29	令和2年度以降の通いの場事業について 地区社会福祉協議会助成金交付基準に基づく、令和2年度地区社会福祉協議会補助金積算額（案）について

成 果	市社協と一体となって取組みを進める事業、特に今年度で終了となる「高齢者通いの場推進事業」について慎重に議論いただくため開催回数を増やし、これまで主体的に関わっていただいた地区社協からの意見集約の場、市との意見交換の場としての機能を果たすとともに、今後の事業展開に関しての共通理解、共通認識に繋がった。
課題・方向性	本市の中域福祉圏の推進役である地区社協の役割と期待は、益々大きくなっている。今後も市社協と一体となり、本市の地域福祉を推進していくための情報共有及び地域福祉活動の活性化に向けた検討の場となるよう、会議の定例化等も含めて会議の在り方について協議していく必要がある。

(3) 地区社会福祉協議会・小域福祉ネットワーク合同会議の開催（市と共催）

「地域共生社会」の実現に向けた地域福祉の推進を図るために、支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様で複合的な地域生活課題について、地域福祉関係者の共通理解・共通認識を図ることを目的に次のとおり開催した。

期 日	1月25日（土）
場 所	市原市消防局 2階講堂
参加者	66名
内 容	講義 長期・高齢化する「ひきこもり」 ～取材現場から見てきた「8050問題」を考える～ 講師 ジャーナリスト 池上 正樹 氏

成 果	「共生社会を考える講演会」として市と共催で実施したことで、今後の方向性を共有することができ、地域福祉関係者にとっても有益な内容として実施することができた。
課題・方向性	地域共生社会の実現に向け、地域に求められる役割と期待は、益々大きくなっている。今後も地域福祉関係施策の動向や新たな取り組みの必要性や知識について、共通理解・共通認識を図るため、主要な担い手とされる関係者の意識醸成に繋がるような企画に努めたい。

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成

(1) 人材育成事業の推進

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るための、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地 区	開催日数	参加者数	支援者数	内 容
辰巳台	4日	285名	85名	地域福祉のための人材確保を目的とし地区内小中学校に福祉体験教室を実施。また、辰巳台地区の地域福祉に携わる方を対象とした「辰巳台地区地域福祉関係者合同研修会」を実施。
市 津	2日	58名	20名	地域住民を対象に日常生活支援事業についての説明会を実施。また、支援会員に対して実践研修を実施し、会員の理解促進に努めた。
国分寺台	7日	486名	13名	「子どもの安全は地域で守る」をテーマとし、地区内の防犯意識を醸成していくために体験型安全指導者養成講座を実施した。
ちはら台	2日	550名	130名	ちはら台医療と介護の集い、高齢者向けコンサートで地区社協活動について紹介し、地域福祉活動への理解促進及び協力者の募集を行った。
南 総	2日	91名	18名	「見守り支援活動」（ふれあいいいきサロン事業、安心生活見守り支援事業）の協力者間で認知症に対する共通理解を深めるとともに、協力者拡充に向けたスタッフを養成することを目的とし、認知症サポーター養成講座を実施。

年 度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R1度	5地区	17日	1,470名	276名
H30度	5地区	22日	1,249名	184名
増 減	—	△5日	221名	92名

成 果	5地区で276名の協力を得て、1,470名の参加者に対し養成講座等を実施し、前年度より多くの方々に参加いただき、地域福祉活動への理解を深めることで活動へのきっかけづくりとなった。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題である。今後、事業参加者が活動に結びつくようフォローしていくとともに、地区社協と市社協が連携し、社協のスケールメリットを活かせるよう、新たな人材の確保策を開発・展開していく必要がある。

2. ボランティアセンター機能の強化

(1) ボランティア活動に関する相談・コーディネート

① ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動を行う（行われている）方々、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相談内容	R1度	H30度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	43件	76件	△33件
派遣依頼に関すること	108件	154件	△46件
その他	96件	78件	18件
合計	247件	308件	△61件

② 登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ				個人ボランティア			
	R1度	H30度	増減		R1度	H30度	増減
活動回数	9,435回	10,600回	△1,165回	延参加人数	3,223名	3,992名	△769名
延参加人数	54,554名	59,789名	△5,235名				

依頼に対する活動状況			
	R1度	H30度	増減
件数	100件	109件	△9件
延参加人数	497名	518名	△21名

③ ボランティアアドバイザーの設置（令和元年度末を以って活動終了）

地域住民が気軽に地域福祉活動や地域活動へ参画するための機会の提供や既存活動の充実を目的に、アドバイザーを配置し相談やコーディネートを行った。

設置数	委嘱ボランティアアドバイザー 2名
活動日時	週1日程度 午前10時から午後4時まで
活動場所	姉崎保健福祉センター
活動日数	21日
活動内容	ボランティア活動に関する相談、助言等

成果	台風等の災害や新型コロナウイルス感染拡大予防に伴うボランティア活動の中止により活動実績は減少したが、活動紹介や連絡調整等に努めるとともに、福祉施設やイベントなどへの派遣調整、地区社協や小域福祉ネットワーク等の地域福祉活動へ積極的に繋げることが出来た。
課題・方向性	地域での活動希望者については、地区社協等の新たな担い手の確保に繋がることから、地区担当職員と連携したコーディネート機能の強化と活動の場の拡充を図りたい。また、ボランティアアドバイザー制度については、本市の市民活動サポート事業、地域の福祉相談窓口の拡充が図られていることから活動終了とし、今後は窓口等での職員によるボランティア相談や地域での総合相談を通じた助言やコーディネート支援を行うなど体制の充実強化を図りたい。

(2) ボランティア活動に関する情報提供

社協だよりやボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センター、老人福祉センターに設置）で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成果	情報ステーションを新たに老人福祉センターに設置するとともに、市民活動サポートセンターと連携しながら、活動情報の共有が出来た。また、ホームページでも最新情報を広く市民にPR出来た。
課題・方向性	ボランティア活動を広く市民にPRするため、まちサポいちはらと連携した情報発信の強化、ホームページの他、SNS（フェイスブック、ツイッター）を積極的に活用し、新たな担い手の発掘や活動へのマッチングに繋げたい。

(3) ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

① ボランティア登録数

ボランティアグループ

年度	登録団体数	登録者数
R1 度	195 団体	4,719 名
H30 度	189 団体	4,657 名
増 減	6 団体	62 名

個人ボランティア

年度	登録者数
R1 度	160 名
H30 度	147 名
増 減	13 名

② ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の繋がりや連携づくり機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事業名	期日	会場	主な内容
総会	5/18	市原市姉崎保健福祉センター	平成30年度事業報告について 平成30年度決算報告及び監査報告について 2019年度事業計画(案)について 2019年度予算(案)について 役員の補充について
V連協会員交流会	5/31	農業センター	会員相互の交流
役員・実行委員親睦会	6/28	竹・いろりの里	会員相互の親睦
夏休み親子体験教室	8/16	市原市姉崎保健福祉センター	“つくってあそぼう” レトロなおもちゃからサイエンスの世界へ!
ボランティアまつり	9/29	市原市立清水谷小学校	ボランティアによる手作りのお祭り
講演会	10/31	市原市市民会館	講演：「消費者トラブルについて知ろう！」 講師：市原市消費生活センター専門相談員 村山 恭子 氏
バス研修会	2/19	国立歴史民俗博物館 旧堀田邸	V連メンバーの交流を図るとともに、バス内でお互いの活動の情報交換を実施
会報発行	年2回		「いちほらV連協だより」第27号(6月)・第28号(12月) 広報活動
V連協運営事業			市原市V連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・交流会実行委員会 ・夏休み体験教室実行委員会 ・ボランティアまつり実行委員会 ・その他打合せ

成 果	新たにボランティアグループ6団体、個人ボランティア13名が登録された。また、団体間の交流や先進地での視察等を通じ、ボランティア間の連携づくり活動の強化の機会に繋がった。
課題・方向性	活動者の高齢化が進み、活動停滞や存続の危機に直面する団体も見受けられるため、活動相談機能の充実や情報提供を積極的に行い、元気な高齢者などが地域で活躍できるような機会や場の確保に向け本会地区担当職員と連携したコーディネート力の強化を図りたい。

(4) ボランティアの普及・交流

ボランティアの普及や団体間の相互交流を活性化し、ボランティア活動の裾野の拡大と協働関係の強化を図るため以下の講座等を開催した。

① ボランティアフォローアップ講座（※市原市が主催する「地域共生社会を考える講演会」と合同開催）

本会のボランティア登録者を対象に、地域福祉施策の動向等を踏まえ、活動に必要とされる視点などの理解を深め活動の活性化に繋げることを目的にフォローアップ講座を開催した。

今年度は、「地域共生社会」の実現に向けた「ひきこもり支援」をテーマに、市原市が地域福祉関係者向けに開催する講演会への参加とし、地域福祉活動実践者との共通理解・共通認識を図ることを目的に実施した。

期 日	1月25日（土）
場 所	市原市消防局 2階講堂
参加者	20名
内 容	講 演：長期・高齢化する「ひきこもり」 ～取材現場から見えてきた「8050問題」を考える～ 講 師：ジャーナリスト 池上 正樹 氏

② 子育て支援者交流会

子育て支援に携わっている支援者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の子育て支援活動の充実に繋げることを目的に実施した。

期 日	12月18日（水）
場 所	市原市市民会館 大会議室
参加者	67名
内 容	講 演：子どもの居場所 子ども食堂 ～地域の子どもの地域で見守り、地域で育てる～ 講 師：特定非営利活動法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長 栗林 知絵子氏 活動発表：・子ども食堂「トイトイ食堂」 ・地域食堂「コンパス」

成 果	講演や実践報告を通じ、子ども食堂を取り巻く現状や必要とされる役割、更には子どもの居場所の必要性について参加者の意識醸成と子育て支援者同士の連携づくりの契機になるとともに、今後必要とされる新たな視点についての共通理解を図ることが出来た。
課題・方向性	交流会を通じ活動者の担い手不足という課題が大きく取り上げられたことから、ボランティアセンターと地区社協等が連携しながら活動者の育成方策（講座等の企画）の検討に努めることとしたい。

(5) ボランティアの養成

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るため以下の講座等を開催した。

① 災害ボランティア養成講座

災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターについて基本的な知識や技術を学ぶとともに、被災後の復興支援に取り組む「災害支援ボランティア」を養成することを目的に企画した。

期 日	11月10日（日）、17日（日） 災害ボランティアセンター開設中のため、中止
場 所	市原市社会福祉協議会
内 容	1日目：体験「昼食準備（仕込み作業）・（新聞紙でお皿制作）」 講師：千葉県災害対策コーディネーター連絡会 講義「ボランティア活動について」 講師：市原市社会福祉協議会 講義「市原市の災害リスク及び対策について」 講師：市原市危機管理課

	演習「災害時の状況をイメージしてみよう！（3・3・3ワークショップ）」 講師：（公社）SL 災害ボランティアネットワーク
	2日目：実技「救急法 ～三角巾・応急手当～」 講師：日本赤十字社千葉県支部 講義「災害時のボランティアに求められること」 講師：NPO 法人ゆかいな仲間たち 講義「災害ボランティアセンターについて」 講師：市原市社会福祉協議会

② 傾聴ボランティア養成講座

相手の心に寄り添って話を聴くことの大切さや、心と耳を傾けて話を聴くために必要な知識と技術を学び、それを活かして活動できる傾聴ボランティアの養成を図ることを目的として実施した。

（共催：市原市五井公民館、傾聴の会ひだまり・傾聴の友やすらぎ・傾聴の会こだま）

期 日	7月7日（日）、14日（日）、21日（日） [全3回] ※希望者のみ体験実習に参加
場 所	市原市五井公民館
参加者	一般市民 延べ120名、関係者 25名
内 容	講義及び演習 講師：東京情報大学 総合情報学部 嘱託教授 田邊 昭雄 氏 その他、傾聴ボランティアグループへの加入促進

③ 青少年ボランティア養成講座

青少年がボランティア活動について自ら考え、ともに知恵を出し合い、実践することで、青少年の自主性や主体性を育むとともに、地域活動やボランティア活動への参加意識の醸成を図ることを目的として実施した。

期 日	2月2日（日）、2月11日（火・祝）
場 所	1日目：市原市社会福祉協議会 2日目：市原市姉崎保健福祉センター
参加者	延23名
内 容	1日目：体験「昼食準備（仕込み作業）・（新聞紙でお皿制作）」 講義「災害時のボランティア活動について」 講師：NPO 法人ゆかいな仲間たち 榎本 悦 氏 講義「市原市の災害リスク及び対策について」 講師：市原市危機管理課 主事 濱田 捷吾 氏 講義「災害ボランティアセンターについて」 講師：市原市社会福祉協議会職員 演習「災害時の状況をイメージしてみよう！（3・3・3ワークショップ）」 講師：（公社）SL 災害ボランティアネットワーク千葉県ネット 坂内 美佐子 氏 （公社）SL 災害ボランティアネットワーク市原市ネット 沼野 博 氏 2日目：災害ボランティアセンター立上げ運営訓練へ参加

成 果	防災・減災、孤立の防止などの地域課題に基づく講座の開催により、地域活動やボランティア活動に関心を持つ方々の契機づくりに繋がった。
課題・方向性	地域課題、ニーズに応じた講座の企画の充実を図り、活動団体等と連携し継続的な活動を促すためのフォロー体制の確立に努めることとする。

(6) 福祉教育（ボランティア学習）の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育（ボランティア学習）の推進を図るため以下の講座を実施した。

① 出前講座

市民に対する福祉教育(生涯学習)の一環とし、市内の学校・機関・企業等からの要請に応じて講座を開催した。

年 度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
R1 度	1 6 団体	0 団体	4 団体	2 0 団体
H30 度	1 7 団体	0 団体	5 団体	2 2 団体
増 減	△ 1 団体	0 団体	△ 1 団体	△ 2 団体

※新型コロナウイルス感染防止のため、2月28日、3月2日に予定していた出前講座については中止。

成 果	市内の小、中学校での開催が多数を占めているが、企業からの依頼など、幅広い世代に心のバリアフリーを広めることが出来た。また、既存グループの他に地区社協や小域福祉NW関係者等にも積極的にご協力いただいたことで、福祉教育の推進に係る担い手確保の契機に繋がった。
課題・方向性	引き続き地区社協・小域福祉NW関係者等による積極的な関わりによる地域福祉活動の人材育成を目指すと同時に、講座受講者が地域で活躍できる場に繋げるための企画調整に努めたい。

(7) 災害ボランティア活動関連

災害時におけるボランティア活動が円滑に行われるよう、災害ボランティア活動の基盤整備・環境整備の促進を図った。

① 市原市災害ボランティア活動連絡調整会議

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期 日	1回目 7月11日(木) 2回目 9月6日(金) 3回目 12月26日(木) 4回目 1月29日(水) ※新型コロナウイルス感染防止のため、3月10日に予定していた第5回の会議は中止。
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内 容	1回目 ①災害ボランティア養成講座及び青少年ボランティア養成講座の開催について ②災害ボランティアセンター設置運営訓練について ③構成機関・団体の活動近況報告について 2回目 ①災害ボランティア養成講座及び青少年ボランティア養成講座の開催について ②災害ボランティアセンター設置運営訓練について ③構成機関・団体の活動近況報告について 3回目 ①災害ボランティアセンター活動報告について ②災害ボランティアセンター設置運営訓練について ③構成機関・団体の活動近況報告について 4回目 ①青少年ボランティア養成講座について ②災害ボランティアセンター設置運営訓練について ④ 構成機関・団体の活動近況報告について

② 災害ボランティアセンター設置運営訓練

「初動体制マニュアル」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、災害ボランティアセンターの設置運営を行うとともに、関係団体の協力を得てサテライト災害ボランティアセンターの設置運営訓練を実施した。

期 日	2月11日(火・祝)
場 所	市原市姉崎保健福祉センター
参加者	119名【学生11名、関係者71名、職員37名】
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次配備からの災害ボランティアセンター・サテライト災害ボランティアセンター設置運営訓練 ・反省会及び市津地区サテライト災害ボランティアセンター体験談 【協力団体】 市原市ボランティア連絡協議会、(公社)SL災害ボランティアネットワーク千葉県ネット、(公社)SL災害ボランティアネットワーク市原市ネット、市原市災害ボランティアネットワーク、千葉県災害対策コーディネーター連絡会、NPO法人ゆかいな仲間たち、日本赤十字社千葉県支部、市原市役所危機管理課、市原市役所地域包括ケア推進課

③ いちはら市民大学 (※市原市の主催事業)

防災コースにて「災害時における災害ボランティアセンターの役割と流れ」について講義を行った。

期 日	10月16日(水)
場 所	サンプラザ市原 生涯学習センター学習室
受講者	21名

④ 令和元年度市原市総合防災訓練への参加 (※市原市の主催事業)

市原市地域防災計画に基づき、発災時における防災関係機関との連携体制の構築、より多くの市民への災害ボランティア活動の意識醸成を目的に参加した。

期 日	9月1日(日)
場 所	市原市立養老小学校
内 容	災害ボランティアセンター啓発チラシ配布

成 果	災害ボランティア活動の充実強化に向け、市民大学での啓発、市防災(土砂災害)訓練参加、連絡調整会議を通じた関係機関・諸団体との連携体制の強化を図り、大規模災害時の対応に備えた災害ボランティアセンター設置運営訓練を通じ、役割・行動等を再認識するとともに職員、関係者の意識醸成に繋がった。
課題・方向性	災害時における支援体制を関係機関等交え改めて再確認し、マニュアル等の見直しも含め災害時の迅速な対応体制の強化に努めたい。

3. 地域福祉推進体制の強化

(1) 民生委員・児童委員との連携強化

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期 日		事 業 名	人数	場 所
月	日			
4	12	市民児協第1回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	18	市民児協監査	4名	市社協
	19	新任民生委員児童委員研修会	1名	千葉県社会福祉センター
	26	市民児協第1回理事会	15名	市社協
		市民児協代議員会	42名	
5	12~18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地
	24	市民児協第1回主任児童委員部会検討会	6名	市社協
	27	県民児協第1回評議員会	1名	千葉県社会福祉センター
	29	第1回ちば民児協だより編集委員会	1名	千葉県社会福祉センター

6	12	第1回主任児童委員連絡会	1名	県社会福祉センター
	21	市民児協第1回主任児童委員部会	18名	市社協
	26	市民児協第1回地域福祉推進部会	19名	市社協
	28	市町村民児協事務担当者会議及び事務局運営講座	1名	千葉県社会福祉センター
7	16	市民児協第2回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	18	第19回千葉県民生委員児童委員大会	72名	千葉県文化会館
	26	六市民児協会長・副会長研修会	3名	市川市
	31～1	全国主任児童委員研修会（東日本）	2名	東京ベイ幕張ホール
8	2	市民児協第1回地域福祉推進部会検討会	7名	市社協
	7	市民児協第2回主任児童委員部会検討会	6名	市社協
	19	市民児協第3回正副会長・部会長会議	5名	市社協
10	2	第2回主任児童委員連絡会	1名	千葉県社会福祉センター
		秋田市民児協より視察研修会の受入	9名	市民会館
	21	市民児協第4回正副会長・部会長会議	4名	市社協
11	14	第69回千葉県社会福祉大会	5名	千葉県文化会館
	21	市民児協第5回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	25	市民児協全体研修会 (市民児協第2回地域福祉推進部会) (市民児協第2回主任児童委員部会)	275名	市民会館
12	2	一斉改選	全委員	市民会館
	9	市民児協第3回地域福祉推進部会	22名	サンプラザ市原
		市民児協第3回主任児童委員部会	21名	
		市民児協第2回理事会	13名	
		市民児協理事研修会	13名	
20	新任民生委員児童委員研修会	88名	千葉市民会館	
1	27	県民児協第2回評議員会	1名	県社会福祉センター
	30	単位民児協会長研修会	10名	三井ガーデンホテル千葉
2	5	主任児童委員研修会	17名	千葉市民児会館
	19	市民児協第6回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	27	市民児協第4回地域福祉推進部会	20名	市社協
		市民児協第4回主任児童委員部会	23名	市社協
		第3回ちば民児協だより編集委員会	1名	千葉県社会福祉センター
4月1日～ 3月31日	慶弔事業	7名		

成果	市民児協の事務局として、各種会議、部会、研修会等の運営支援に取り組み、民生委員活動の資質向上及び活性化を図った。また、今年度は3年に一度の改選があり、131名の委員が退任、136名の委員が新たに委嘱されたことで、新任を含め新たな体制として、地区担当職員と連携しながら分かりやすい情報提供に努めた。
課題・方向性	民生委員は、地域住民の身近な相談支援者であるとともに、地域福祉活動の推進役の一翼を担っており、今後も市社協との連携強化、充実を図っていく必要がある。また、地域共生社会の実現に向け、民生委員活動への期待も高まっていることから、相談体制の充実に向けた民児協組織の強化を図っていく必要がある。

(2) 共催・後援等事業

社会福祉施設・団体との連携強化をはかり協働活動を促進するため、次のとおり共催、後援及び協賛を行った。

事業名	期日	会場	実施主体及び内容
第31回キッズフェスタ in 市原	4月28日	卯の起公園	<u>キッズフェスタ in 市原実行委員会</u> 育成団体7団体で実行委員会を組織し、子ども達に会場で楽しく過ごしてもらうために実施した。
一般公開ケース研究会	7月6日	市原市立加茂学園	<u>市原地区保護司会</u> 社会を明るくする運動の一環として、犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ等をテーマに、犯罪や非行防止を目的に実施した。
令和元年度第53回 青少年のつどい市原市大会	8月25日	ゼットエー 武道場他	<u>市原市青少年相談員連絡協議会</u> 次代を担う青少年が、スポーツを通じて相互の親睦と友情を深め、青少年としての自覚と誇りを高めると共に、健康な体力づくりを目指し、青少年の健全育成を目的に実施した。
令和元年度市原市 老人クラブ会員作品展	11月1日 ～11月4日	市原市 国分寺公民館	<u>市原市老人クラブ連合会</u> 老人クラブ会員の作品を公開展示し、地域住民に老人のもつ経験と技術の周知を図り、また、趣味活動を通じて親睦を深め高齢者の生活をより豊かなものにするを目的に実施した。
第21回特連文化 フェスティバル・ 市原市特別支援教育振興大会	12月5日	市原市 市民会館	<u>市原市特別支援教育研究連盟</u> 市原市内小中学校特別支援学級及び千葉県特別支援学校に在籍する児童生徒が、日頃行っている学習や文化的活動を発表し、各学校間、地域間の交流を目的に実施した。
市原刑務所誕生会 市原学園成人式	毎月	市原刑務所 市原学園	<u>市原地区更生保護女性会</u> 更生保護女性会の7支部が月別に誕生会を祝い、慰問を実施した。
重度障がい者もできる 「バリアフリースポーツ」 教室	毎月	三和コミュニティ センター他	<u>市原市中心身障害者福祉団体連絡協議会</u> 地域の障がい者・高齢者・子どもたちが共にスポーツを楽しみ、スポーツを通じて明るい仲間作りができることを目的に実施した。
第37回市原市障がい者スポーツ大会	10月20日	市原緑地運動公園 臨海体育館	<u>市原市障がい者スポーツ実行委員会</u> 市内の障がい者がスポーツを通じて、体力の維持増強と「ふれあいとやさしさ、潤いのある生活ができるまち」の実現を目的に実施した。

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	平成31年4月1日～令和6年3月31日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	平成27年4月1日～令和2年3月31日
姉崎保健福祉センター	平成28年4月1日～令和3年3月31日

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種の相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、保健師による健康相談や血圧測定、市原警察署による交通安全指導の実施、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名	期日	
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)	毎月1回	
各種講座	大正琴	第2・第4水曜日
	書道	第1・第3金曜日
	生け花	第2・第4木曜日
	アートフラワー	第1木曜日
	絵手紙	第1月曜日
	囲碁会	毎週火曜日
	ゲートボール	休止

① 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
老人クラブ	団体数	14	12	13	13	8	6	12	13	8	13	11	0	123 団体
	人数	304	192	218	214	92	153	187	220	108	285	174	0	2,147 名
一般団体	団体数	20	21	21	20	16	17	21	21	21	18	21	0	217 団体
	人数	242	259	289	271	225	227	269	269	277	239	248	0	2,815 名
団体合計	団体数	34	33	34	33	24	23	33	34	29	31	32	0	340 団体
	人数	546	451	507	485	317	380	456	489	385	524	422	0	4,962 名
個人人数	1,748	1,509	1,538	1,752	1,561	1,426	1,707	1,672	1,717	1,558	1,547	0	17,735 名	
総 合 計	2,294	1,960	2,045	2,237	1,878	1,806	2,163	2,161	2,102	2,082	1,969	0	22,697 名	

② 利用状況前年度比較

区分	団体数		前年度比較増減	人数		前年度比較増減
	R1年度	H30年度		R1年度	H30年度	
老人クラブ	123 団体	146 団体	△23 団体	2,147 名	2,449 名	△302 名
一般団体	217 団体	199 団体	18 団体	2,815 名	2,778 名	37 名
個人				17,735 名	21,217 名	△3,482 名
合 計	340 団体	345 団体	△5 団体	22,697 名	26,444 名	△ 3,747 名

【成果・課題】

成 果	ラジオ体操や踊りを定期的実施したことで、高齢者の健康意識も高まり、利用者が率先して参加いただいている。また、地区社協と連携し、通いの場の会場として提供することで地域との連携と新たな利用者を拡充することができた。災害時には土日も開館し、浴室の無料開放を行い災害支援の一翼を担うことができた。
課 題	台風災害や新型コロナウイルス対策による閉館等により、全体の利用者の減少に繋がっている。健康器具であるヘルストロンやマッサージ機の更新を図ったが、更なる施設の充実や新たな施策の展開等により利用促進を図っていく必要がある。

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
体育室	2,528	2,190	2,946	3,088	2,267	2,441	3,454	2,796	2,636	2,417	2,345	261	29,369	32,789	△ 3,420
ボランティアルーム	589	483	671	545	526	475	536	491	509	476	603	34	5,938	6,838	△ 900
実習室	300	345	355	374	280	301	394	379	498	327	406	43	4,002	4,981	△ 979
調理実習室	33	44	43	65	42	25	23	26	142	44	53	6	546	718	△ 172
研修室	781	900	1,024	1,134	841	982	1,228	1,205	1,043	1,446	929	1,228	12,741	13,443	△ 702
多目的ホール	757	687	971	709	684	873	1,065	971	826	633	729	162	9,067	9,377	△ 310
ゲートボール場	24	37	40	28	8	8	15	9	6	12	37	0	224	483	△ 259
相談室	115	111	54	145	99	53	52	151	77	59	66	50	1,032	663	369
合計	5,127	4,797	6,104	6,088	4,747	5,158	6,767	6,028	5,737	5,414	5,168	1,784	62,919	69,292	△ 6,373

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内 容	参加者
ニコニコキッズ	5月20日 7月22日 9月9日 11月18日 12月16日 1月27日 3月16日	ボランティアによる手作り遊具を活用し、開放された遊びの場を提供することで、地域の親子が交流を図り情報交換を行う等子育ての支援を行うことを目的として実施した。 ※9月は台風のため中止。 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	369名
世代間交流事業 卓球教室	7月27日 7月28日	高齢者の卓球グループの方々を講師として卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催)	88名
バリアフリー スポーツ教室	6月23日 7月28日 8月25日	障がい児(者)を中心としたバリアフリースポーツを地域の高齢者、児童、ボランティアと一緒に体験することで、障がい者への理解を深め交流の機会を作るために実施した。	125名
昔あそび	5月19日 8月9日 11月30日 2月29日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。 (児童館と共催) 協力：シルバー友の会 ※2月は新型コロナウイルス感染防止のため中止。	200名

アネッサ発 クリーン大作戦	10月12日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として企画した。(児童館と共催) ※台風のため中止。	0名
初めての手話入門	6月～8月 (全10回)	市民に対し、障がいに対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者の手話入門講座を実施した。	159名
チャレンジ 夏休みの課題	8月7日 8月8日 8月9日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館及び青少年会館と共催)	74名
グランドゴルフ大会	9月8日	社会体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(社会体育振興会と共催)	51名
普通救命講習	5月14日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	7名
施設内美化活動	4月13日 5月11日 6月8日 9月7日 11月9日	敷地内の除草を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。 (台風のため1回順延)	40名
自主防災講習会	6月、7月 (全4回)	防災についての知識を高め、地域防災のあり方や取り組みについて学ぶことを目的として実施した。	240名
乳幼児のための救急法	9月19日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 協力団体：姉崎消防署	64名
ボランティア 活動紹介	9月1日 ～9月30日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	11団体
サークル活動紹介	10月	日頃アネッサを利用しているサークルの活動紹介を掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがい活動のきっかけづくりとすることを目的として実施した。	10団体
レコード交流会	4月～3月 (全11回)	レコード鑑賞(茶話会)を通じて地域住民の居場所づくりを行い、交流する機会を提供することを目的として実施した。 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	249名
おもいっきり体育室	6月1日 8月9日 11月30日 3月23日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	211名

成果	児童館や地域の各種団体等との共催で事業を行うことで、内容の充実や参加者数の拡充を図ることができた。また、保健福祉センターの特性を活かした様々な事業を行うことで、高齢者、児童、障がいのある方などが相互理解を深め、交流を図ることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休館を考慮しても、昨年度と比較して利用者は緩やかな減少傾向にある。しかし、研修室や多目的ホールなど特定の貸室の利用者は増加していることから、他の貸室の利用促進に向けて広報活動などを積極的に行う必要がある。

② 老人福祉センター

地域の高齢者が集うことにより、社会的孤立感の解消、身体的及び精神的な負担の軽減を図るとともに、健康で豊かな心で生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減	
大広間	団体	32	63	32	32	24	24	55	32	24	109	40	0	467	408	59
	個人	954	791	881	980	920	770	912	876	835	851	847	7	9,624	11,314	△ 1,690
和室	21	67	82	78	61	47	98	113	95	61	93	0	816	1,128	△ 312	
男性浴室	783	624	723	754	567	672	705	696	712	665	706	37	7,644	8,357	△ 713	
女性浴室	352	227	293	318	208	310	322	300	339	365	354	22	3,410	3,606	△ 196	
合計	2,142	1,772	2,011	2,162	1,780	1,823	2,092	2,017	2,005	2,051	2,040	66	21,961	24,813	△ 2,852	

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ヨガ教室	4月～6月 (全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした初心者向けのヨガ。 講師：鈴木 なぎさ 氏	119名
手芸教室	6月～7月 (全2回)	ちりめんてしるし毬を作る。 講師：小澤 よし子 氏	37名
一文字書を楽しむ 書道教室	9月～10月 (全4回)	色紙に好きな一字を書く。 講師：大野 蘭秀 氏	44名
健康吹矢教室	10月～11月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした健康吹矢。 講師：田中 博之 氏	37名
ほのぼのダンス・ ストレッチ教室	5月～8月 (全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的としたストレッチ体操等。 講師：垂 三枝子 氏	591名
絵手紙教室	11月～1月 (全10回)	絵手紙の基本について学んだ。 講師：東 洋子 氏	124名
そば打ち教室	12月 (全1回)	市原産のそば粉を利用したそば打ち。 講師：斉藤 忠夫 氏	9名
60歳からの健康 体操教室	2月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした健康体操。 講師：有山 貴子 氏	143名
折り紙教室	5月 (全2回)	広告紙を使用して小箱作り。 講師：福田 進一 氏	18名
ヨガ教室中級	11月 (全4回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした経験者向けのヨガ。 講師：鈴木 なぎさ 氏	53名
メンズキッチン	1月～2月 (全2回)	男性を対象とした料理教室。 講師：市原市食生活改善協議会姉崎支部	30名
中国式水墨画教室	10月～11月 (全4回)	初心者向けの中国式水墨画教室。 講師：陳 珂 氏	30名
ラベンダーポプリとバン ドル作り教室	6月 (全2回)	旬のラベンダーを使ってポプリとバンドルを製作。 講師：西村 美和子 氏	17名

成果	利用者アンケートで人気の高かった講座を継続・拡充することで前年度より多くの参加者を得ることができた。また、市の広報やホームページなど様々な媒体を活用し広く市民に呼びかけることで、事業目的である高齢者の交流促進や健康寿命を延ばすためのきっかけ作りに寄与することができた。
課題・方向性	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月が1日のみの開館であったため年間利用者が昨年度より減少している。しかし、浴室は、9月の台風時に無料開放とした結果、「新規利用者」及び「再利用者」等利用者の増加に繋がった。今後も継続して利用促進のための広報活動を積極的に行う必要がある。

③ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
児童	589	562	685	794	810	621	592	581	555	502	523	3	6,817	7,352	△ 535
保護者	438	483	561	592	520	514	515	515	441	407	428	6	5,420	5,965	△ 545
合計	1,027	1,045	1,246	1,386	1,330	1,135	1,107	1,096	996	909	951	9	12,237	13,317	△ 1080

イ) 子育て支援事業(ポヨポヨクラブ・のびのびクラブ・ひよこクラブ)「毎週火・木・金曜日」・ふたごっちゃんクラブ「毎月第1水曜日」(8月は学童夏休みの為ポヨポヨクラブ、ふたごっちゃんクラブのみ実施)

幼児を持つ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図るために実施した。毎月第1水曜日は、多胎児を持つ保護者を対象に「ふたごっちゃんクラブ」として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
ポヨポヨクラブ	216	191	216	255	177	200	182	221	165	214	135	0	2,172	2,685	△ 513
のびのびクラブ	107	192	183	74	/	153	72	175	90	176	131	0	1,353	1,512	△ 159
ひよこクラブ	146	197	171	76	/	186	152	153	72	153	122	0	1,428	1,520	△ 92
ふたごっちゃんクラブ	27	0	10	19	/	9	21	20	21	/	20	0	147	158	△ 11
合計	496	580	580	424	177	548	427	569	348	543	408	0	5,100	5,875	△ 775

ウ) 子育て支援事業「毎週水曜日」(8月は学童夏休みの為中止)

ボランティアによる絵本の読み聞かせやリズム遊び等を取り入れた子育て支援を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
英語で遊ぼう	34	38	37	44	/	23	24	38	8	42	32	0	320	335	△ 15
ママといっしょ	40	40	52	/	/	28	32	48	/	27	48	0	315	341	△ 26
合計	74	78	89	44	0	51	56	86	8	69	80	0	635	676	△ 41

エ) 企画事業「毎週土・日曜日」

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させるために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
参加者	146	86	193	175	242	128	83	51	200	83	187	0	1,574	1,856	△ 282

オ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
登録者	7	9	14	13	7	7	2	7	2	3	3	0	74	82	△ 8
貸出(冊)	297	310	388	496	296	307	290	313	82	266	292	10	3,347	3,245	102

カ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
アネッサ発 クリーン大作戦	10月12日	施設利用者と地域住民とで行う地域の清掃活動に参加することでボランティア活動への意識を高めることを目的として企画した。 (地域福祉センターと共催) ※台風のため中止。	0名
中高生による 子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなど。	365名
母親クラブ 「乳幼児の為の 救急法」	9月19日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	56名
アネッサ探検隊	7月6日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として実施した。 講師：柳池 繁氏・田中 義和氏	24名

おもいっきり体育室	6月 1日 8月 9日 11月30日 3月23日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。(地域福祉センターと共催) 協力: 淑徳大学生 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	211名
おもしろ実験教室	8月 3日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。 講師: 市原袖ヶ浦少女発明クラブ	29名
昔あそび	5月19日 8月 9日 11月30日 2月29日	ボランティアとの交流を図りながら、昔から传承されている子どもの遊びを楽しみ、交流を図るために実施した。 (地域福祉センターと共催) 協力団体: シルバー友の会 ※2月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	200名
子育てクラブ 合同クリスマス会	12月18日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子供の成長と子育てに悩む保護者同士の交流の場として利用されることを目的として実施した。	158名
母親クラブ 「料理教室」	12月7日 AM、PM	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。	37名
母親クラブ 「食育座談会」	6月 6日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師: 市原市保健センター栄養士	53名
世代間交流事業 アネッサキッズ 卓球教室	7月27日 7月28日	高齢者の卓球グループの方々を講師として卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	88名
ジャグリング 教室	10月20日 10月27日	創作活動であるジャグリングの発表の場としてジャグリング教室を実施した。 協力団体: 市原 Jug Jug	30名
こども トールペイント教室	12月1日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。 講師: 黒川 美智子 氏	9名
母親クラブ 「交通安全教室」	11月12日	日常における交通マナーの基礎知識を習得し、交通安全に役立てることを目的に実施した。 協力団体: 市交通政策課	56名
母親クラブ 「ママのリフレッシュ講座」	2月19日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「3B体操」を実施した。 講師: 森 久美子 氏	37名
子育てクラブ合同 大運動会	10月 9日	発育時期に分かれ実施している事業を合同にしてイベントを行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ね、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	184名
子育て座談会	5月30日 11月29日 3月19日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	76名
チャレンジ 夏休みの課題	8月 7日 8月 8日 8月 9日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(地域福祉センター及び青少年会館と共催)	74名
キッズ ボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小中学生のボランティアによる子育てクラブでの発表に向けて練習した。	86名

成 果	乳幼児とその保護者向けの事業だけでなく、小中高生や大学生、地域のボランティアの協力など、幅広い年齢層の方たちとの交流を持つことで児童の健全育成を図ることができた。また、小中学生が読み聞かせ等を行うなど、ボランティア意識の向上と育成に努め、多くの参加者が得られた。図書室に関しては環境整備をすることにより、貸し出し数の増加が見られた。
課題・方向性	子育て支援事業の参加者数減少により、全体的に利用実績が減少傾向にあるが、共働き世帯の増加や、認定子ども園や幼稚園のプレ保育など、市内の保育サービスが充実したことが理由の一つとして想定される。一方で単発または短期間で実施する事業への参加者は増加の傾向にあるため、利用者アンケート等を活用し、ニーズにあった事業の検討が必要と思われる。

(3) 三和保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計	H30度	増減
ボランティアルーム	340	531	462	430	275	244	458	481	378	347	360	23	4,329	4,558	△ 229
研 修 室	200	234	268	215	227	240	292	316	199	248	217	6	2,662	3,213	△ 551
多目的ホール	788	697	755	771	641	472	722	849	679	691	697	26	7,788	9,014	△ 1,226
創作活動室	105	91	117	111	120	85	109	320	156	107	113	13	1,447	1,555	△ 108
合 計	1,433	1,553	1,602	1,527	1,263	1,041	1,581	1,966	1,412	1,393	1,387	68	16,226	18,340	△ 2,114

イ) 年間事業実施状況

事 業 名	期 日	内 容	参 加 者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・4土曜日)	障がい児と未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「かるがも」の運営により実施した。また、キッズサマーフェスティバル、七夕やクリスマスなどのイベント等を実施した。	627名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (第2日曜日)	障がい児者を対象としたボランティアによる絵画・工作教室を実施した。 講師：米元 志慶子 氏	50名
フレンズ	4月～3月 (毎月第1・3木曜日)	発達の気になる未就学児を対象に、遊びの場と機会を提供し、遊びを通して健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を目的として、発達支援センターとボランティアの協力を得て実施した。	771名
自由空間	4月～3月 (毎月第2木曜日)	ひきこもりや不登校、社会に出ることが困難な方々を対象に相談や、談話することにより社会へ出ていくための支援を行った。	42名
子育てサロン さんわぼかぼか	4月～3月 (毎月第4日曜日 8、1月除く10回)	地区社会福祉協議会と連携、主に未就学児と保護者を対象に遊びと交流の場を提供すること及び見守りや相談等の活動を担うボランティアの育成支援を目的に実施した。	355名
世代間交流	5月22日 10月9日	センター利用するを高齢者と三和保育所の児童がものづくりや運動を通じて世代を超えた交流を図り世代を超えて交流することの喜びを感じてもらうことを目的に実施した。	107名
歌声喫茶	7月17日 9月26日 11月20日	サンハート利用者や地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、サンハート利用団体に対して活動の披露の場を提供した。	150名

さんさんクリーン大作戦	12月8日	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことにより、交流を図りながら地域の環境美化を实践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、サンハート周辺のごみ拾いを実施した。	82名
サンハートまつり	1月26日	地域住民の交流を図るとともに、サンハートの周知、利用活性化を図ることを目的として、利用サークルの作品展覧会、舞台での発表会などを実施した。	396名
市民講座	5月19日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するために「認知症サポーター養成講座」講座を実施した。	23名

成果	貸室利用者は台風や新型コロナ対策による閉館の影響を受け累計数では減少となったが、これらの影響を除けば前年同様の利用者数である。地域交流事業である「サンハートまつり」、「さんさんクリーン大作戦」においては、地区社協やネットワークなど地域福祉関係者の協力や、センター利用者の積極的な参加により、地域住民と一体となった事業展開を行うことができた。
課題・方向性	貸室利用者の増加傾向から横ばい傾向へシフトが見られることから、サークルや地域福祉団体等に利用促進の働きかけを行っていく。事業については、地区社協やネットワークなど地域福祉関係者やセンター利用者の協力が不可欠であるため、より一層の信頼関係を築きながら事業参加に繋げる。

② 老人福祉センター

地域の高齢者が集うことにより、社会的孤立感の解消、身体的及び精神的な負担の軽減を図るとともに、健康で豊かな心で生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
大広間(団体)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	275	0	0	275	109	166
大広間(個人)	391	308	410	419	436	309	353	375	344	344	375	8	4,072	4,534	△ 462
和室	47	39	37	47	33	39	72	45	42	167	30	0	598	622	△ 24
男性浴室	908	697	954	951	812	233	674	771	783	772	698	38	8,291	10,008	△ 1,717
女性浴室	474	371	464	457	380	121	332	370	405	398	355	23	4,150	5,467	△ 1,317
生活相談室	35	47	39	47	36	50	39	53	31	41	32	0	450	542	△ 92
合計	1,855	1,462	1,904	1,921	1,697	752	1,470	1,614	1,605	1,997	1,490	69	17,836	21,282	△ 3,446

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
健康体操教室	5月8、15、22、29日、 10月2、9、16、23日 (8回)	高齢者の健康づくりその習慣化を目的として、健康体操教室を実施した。 講師：大前 陽子 氏	106名
楽しく俳句教室	6月1、8、15、22日 (4回)	俳句を通じて趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：木村 孝一 氏	59名
気功教室	6月4、11、18、25日 (4回)	高齢者の健康づくりその習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。	63名
ヨガ教室	6月5、12、19、26日 7月3、10、17、24日 (8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	78名

絵手紙教室	7月16、23日 11月19、26日(4回)	絵手紙作りを通じて趣味活動と交流の場を提供することを目的に実施した。 講師：向井 艶子 氏	36名
いつでも脳トレ教室	9月18日(1回)	脳トレを通じて介護予防のための健康づくりの知識の習得を図ることを目的に実施した。 講師：豊留 富美 氏	11名
笑う健康法教室	9月3、17日 10月1、15日(4回)	ラフターヨガを通じて高齢者の健康づくりその習慣化を目的として実施した。 講師：塩本 京子 氏	52名
家庭でできる茶の湯教室	10月2、9、16、23日(4回)	茶の湯体験を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：白川 ますみ 氏	35名
一文字書教室	11月11、18、25日 12月2日(4回)	書道を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：大野 文子 氏	38名
シニア向け腰痛対策教室	12月3、10、17日(3回)	健康体操を通じて健康維持とその習慣化を図り、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：梅津 行二 氏	36名
健康太極拳教室	2月18、25日(2回) 3月3、10日	健康太極拳を通じて健康維持とその習慣化を図り、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：等々力 啓子 氏 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	36名

成果	浴室利用者減少の進行に歯止めの傾向が見られ、浴室利用者や貸室利用者が活動終了後に大広間を利用することで大広間の利用が活性化している。事業については、高齢者の健康づくりに焦点を当てた継続・新規事業（「健康体操や健康太極拳教室」）を実施し好評だった。
課題・方向性	浴室については、今後も機械設備の点検の徹底など、円滑な管理に努めながら利用者の増加に努める。事業については、今後もアンケート結果を反映させた事業実施を行うと共に、実施の際の事前周知や広報を活用し、参加者の増加に繋げる。

③ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30度	増減
児童	384	270	378	676	752	293	282	355	317	374	344	7	4,432	6,177	△ 1,745
保護者	240	221	254	410	411	210	236	266	235	276	260	8	3,027	4,462	△ 1,435
計	624	491	632	1,086	1,163	503	518	621	552	650	604	15	7,459	10,639	△ 3,180

イ) 子育て支援事業

a) さんさんくらぶ・きらきらくらぶ「毎週火・金曜日」

乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30度	増減
参加者(さんさん)	68	45	38	107	95	47	41	52	22	58	53	中止	626	1,168	△ 542
参加者(きらきら)	69	42	53	92	119	46	44	52	23	53	53	中止	646	1,249	△ 603
計	137	87	91	199	214	93	85	104	45	111	106	中止	1,272	2,417	△ 1,145

b) よちよちくらぶ「毎週水曜日」

11ヶ月から1歳6ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30度	増減
参加者	14	28	28	21	中止	36	46	31	28	58	48	中止	338	198	140

c) あかちゃんくらぶ「毎週木曜日」

3ヶ月から10ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30度	増減
参加者	24	32	22	24	中止	24	46	45	33	26	11	中止	287	406	△119

ウ) クラフト&プレイ「第1～3及び第5日曜日」・みんなあそぼう「毎週第4日曜日」

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させるために実施した。みんなあそぼうは室内ゲームを中心とした遊びの提供を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30度	増減
参加者(クラフト)	2	11	12	26	3	8	4	11	3	6	6	中止	92	438	△346
参加者(みんな)	4	0	6	0	0	6	3	13	6	3	0	中止	41	0	41
計	6	11	18	26	3	14	7	24	9	9	6	中止	133	438	△305

エ) 児童館ボランティアクラブ

児童を対象に、ボランティアの育成を目的として、児童館ボランティアクラブに登録してもらい、パネルシアターの作成、発表会を企画した。

期 日	内 容	参加者
8月2、20、23日	子育て支援イベントにおいて、パネルシアターの発表及び大型絵本の読み聞かせ、ダンスの発表	13名
3月7日	新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止 (高齢者施設「三和の里」においてパネルシアター及び大型絵本の発表)	中止

オ) 放課後クラブ「毎週火～金曜日(学校の長期休暇期間を除く)」

小学生の放課後の居場所づくりを目的とした工作教室等。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30度	増減
参加者	11	20	42	21	25	9	25	21	13	9	中止	196	246	△50	

カ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	H30度	増減
新規登録者	10	6	8	11	10	2	6	6	3	12	7	0	81	111	△30
貸出(冊)	180	139	132	268	206	90	127	148	109	106	158	4	1,667	3,452	△1,785

キ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
グリーンガーデン	7月20,28,30,31日 8月1日,2,3,7,8,9, 13,16,24日	花の種まき及び水やり(児童館脇のウッドデッキに朝顔のグリーンカーテンを設置)	28名
ベビーマッサージ教室	6月13、27日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師:嶋津 一恵 氏	34名
人形劇	5月17日 12月10日	「グループともだち」による人形劇上演 「人形劇団とんとん」による人形劇上演	12名 25名
夏休み子どもハロウィンモビール教室	7月25日	フェルトでハロウィンモビールを作る 講師:児童厚生員	7名

夏休み子ども 布ぞうり教室	8月3日	タオルで布ぞうりを作る 講師:宋倉 春江 氏	5名
夏休み子ども 絵手紙教室	8月16日	はがきとエコバックに絵手紙を作成 講師:向井 艶子 氏	9名
親子ベビーヨガ教室	11月29日	親子で体験 講師:篠宮 方美 氏	16名
知ってよかったママの 救急法	10月23日	乳幼児のケガや誤飲などの手当での仕方実技指導 講師:市原市中央消防署員	24名
世代間交流事業	6月28日	ボランティアによる読み聞かせ	22名
	12月20日	オカリナサークルによるオカリナ演奏	55名
	2月25日	ボランティアによる読み聞かせ	23名

成 果	児童館利用者については年々減少傾向にあるが、乳児・乳幼児と保護者を対象とする「子育てクラブ」など、各種実施事業は参加者から好評を得ている。
課題・方向性	児童館利用者の減少傾向については、共働き世帯の増加や認定子ども園や幼稚園のプレ保育などの市内の保育サービスの充実が理由の一つとして考えられる。今後はより一層、ニーズに沿った事業を企画しながら広く市民に周知し、利用者の増加に繋げていく。

④ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
研修室	531	313	393	349	497	551	407	425	486	553	295	37	4,837	5,430	△ 593
プレイルーム	412	431	502	525	679	424	473	611	548	287	382	8	5,282	5,740	△ 458
障がい者談話室	412	431	502	525	679	424	473	611	548	287	382	8	5,282	5,740	△ 458
療育相談室	46	53	70	42	114	27	71	74	28	78	30	10	643	730	△ 87
合 計	1,401	1,228	1,467	1,441	1,969	1,426	1,424	1,721	1,610	1,205	1,089	63	16,044	17,640	△ 1,596

(4) 南部保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
ボランティアルーム	147	233	171	384	143	146	125	407	296	157	37	9	2,255	2,116	△ 139
調理実習室	41	32	25	52	10	23	41	51	42	57	66	0	440	446	△ 6
多目的室	713	758	877	1,617	634	1,620	894	1,376	955	583	557	53	10,637	10,477	160
創作活動室	20	23	22	383	5	282	12	449	88	13	19	0	1,316	1,155	161
会議室②	148	81	114	401	59	323	85	532	145	95	44	5	2,032	1,873	159
合計	1,069	1,127	1,209	2,837	851	2,394	1,157	2,815	1,526	905	723	67	16,680	16,067	613

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内 容	参加者
子育て支援事業① (子育てサロン)	7月22日 7月29日 8月5日 8月19日	市内在住の就学前の児童を対象に、子育てしている保護者やそのお父さまが同じような仲間と交流できる憩いの場を設け、親子のふれあいなど、地域福祉の推進を図った。 協力団体：南総地区民生委員児童委員協議会 市原市更生保護女性会南総支部 講師：松山 知子 氏(手形アート) 森 勝彦 氏 (ヒップホップダンス) 大学生ボランティア (おりがみ、紙編み工作)	130名
子育て支援事業② (子どもフェスタ)	7月28日	小学校入学前の児童とその家族を対象に、親も子も楽しむことができる遊びと交流の場を提供し、地域福祉の推進を図った。 協力団体：子育て家庭支援員協議会 南総支部・加茂支部 南総地区社会福祉協議会	693名
ふれあいサロン事業	5月21日 6月18日 7月16日 9月17日 10月15日 11月19日	在宅介護をしている方または介護の経験のある方、また将来介護に不安のある方を対象に、楽しい仲間づくりや交流の場を提供した。 協力団体：市原市地域包括支援センター トータス 市原市地域包括支援センター ひまわり 伊藤整体療術院 アコーディオン・ドレミファ	111名
地域交流事業 (歌声喫茶)	5月8日 9月20日 12月11日	生演奏による音楽を通じて参加者全員が一緒に歌うことにより、相互のふれあいや交流を図った。 協力団体：チャーリーウクレレクラブ アコーディオンいちはら	200名
世代間交流事業 (昔あそび)	7月28日 3月24日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心の育成を育むことを目的として実施した。 協力団体：いちはらシルバー友の会 牛久小学校区小域福祉ネットワーク 協力団体：いちはらシルバー友の会 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	275名
障がい者交流事業 (ボッチャ)	3月12日	障がいのある方が自らを理解してもらうことにより、障がい者同士の交流やボランティアの方々や地域住民とのこころのふれあいを目的とする。 ※新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	0名

成 果	子どもから高齢者まで、地域住民が交流できる場の提供及び地域の相談窓口となることができた。また、地域福祉関係等各種団体と連携した取組みを行うことで連携強化を図ることができた。
課題・方向性	子ども、高齢者、障がいの有無を問わず、様々な方々がふれあい、交流できる場の提供及び相談支援による地域の窓口となるよう努め、地域住民の交流となのはな館の利用拡大を目指していく。

② 中高年健康増進施設

地域の中高齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
健康増進施設	3,114	2,471	3,210	3,433	3,298	2,114	2,742	2,539	2,341	2,681	2,392	55	30,390	41,635	△ 11,245

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
安全講習会	通年	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的に実施した。	162名
水中ウォーキング	年14回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、安全且つ効果的な水中ウォーキングを学ぶとともに、健康で明るく活力に満ちたまちづくりの推進を図ることを目的に実施した。 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	168名
月例講習会	毎月1回(月曜日)	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、介護予防と生活習慣の改善及び健康で明るく活力に満ちたまちづくりの推進を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	93名
簡単ストレッチ教室	年116回	準備体操・整理体操としてのストレッチの普及、定着を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	1,437名

成 果	前年度に比べ利用者数が減少傾向にあり、12月には1日の平均利用者数が66人に減少したが、1月に地域新聞を通じて市民への積極的なPR活動を展開した結果、1月は1日の平均利用者数76人となり、ひと月で300人を超える大幅な利用者増に繋がった。
課題・方向性	引き続き、市民への積極的なPR活動を展開するとともに、利用者の活動の意欲に繋がるような指導を取り入れて使用促進に努める。

③ 老人福祉センター

健康で豊かな心で生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
大広間(団体)	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	50	2	48
大広間(個人)	397	364	406	414	417	274	406	373	366	392	400	4	4,213	4,282	△69
和室	3	29	0	30	10	14	0	21	21	0	0	0	128	173	△45
合計	400	393	406	444	427	338	406	394	387	392	400	4	4,391	4,457	△66

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
健康寿命を延ばす料理教室	10月2日 11月20日 2月5日 (全3回)	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏	61名
健康体操教室	7月～10月 (全10回)	高齢者の健康づくりを目的として、健康体操教室を実施した。 講師：山口 紀美代 氏	217名
ヨガ教室①「初級」	5月～7月 (全7回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	204名
ヨガ教室②「中級」	9月～10月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	139名
ハーモニカ教室	5月～6月 (全5回)	ハーモニカを通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：高松 洋子 氏	66名

囲碁クラブ	9月～11月 (全10回)	囲碁という趣味を通して、交流の場を提供することを目的とし実施した。 講師：森 重文 氏	84名
太巻き寿司教室	4月23日 1月21日 (全2回)	巻き寿司という料理を通して、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：小出 一子 氏	35名
エンジョイ・ボール・エクササイズ	1月13・20日 2月 5・12日 (全4回)	ボールエクササイズという運動を通して、交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：根本 壽美子 氏	84名
健康教室① 「リンパビクス」	6月25日	体を動かすことで基礎体力の維持、増進を助長し健康で生きがいのある生活へと繋げることを目的としてリンパビクスを実施した。 講師：中村 佳代 氏	47名
健康教室② 「在宅介護教室」	7月24日	介護に興味のある方、高齢者を介護している家族や近隣者を対象に在宅介護教室を実施した。(共催：トータス) 講師：前原 みはる 氏 高木 裕介 氏	43名
健康教室③ 「講話」	12月10日	動脈硬化予防と食事を中心に、「血管年齢と栄養」の講話を実施した。 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏	38名

成果	利用者の方への分かりやすい情報提供に心掛けるとともに、市の広報や地域新聞への掲載による各種講座等のPRに努めた。また、高齢者の介護予防を図り、地域住民同士のふれあいと活動の場となるような新たな講座を取り入れることができた。
課題・方向性	更なる高齢社会に対応した効果的な事業展開を図る。

④ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
児童	300	248	340	533	484	337	234	251	266	284	267	2	3,546	3,949	△403
保護者	296	259	324	541	460	261	279	280	289	312	271	2	3,574	3,338	236
合計	596	507	664	1,074	944	598	513	531	555	596	538	4	7,120	7,287	△167

イ) 子育て支援事業

a) あかちゃんクラブ『ほっぷ』 「毎週金曜日」

3ヶ月から1歳頃の乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
参加者	65	65	83	90	146	78	67	111	109	115	93	0	1,022	978	44

b) ちびっこクラブ『すてっぷ』 「毎週水曜日」

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
参加者	70	86	107	121	98	55	84	100	123	96	97	0	1,037	1,497	△460

c) 親子クラブ『じゃんぶ』 「毎週土曜日」

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
参加者	73	64	104	101	94	56	61	75	35	80	86	0	829	844	△15

ウ) つくってあそぼう (クラフト&プレイ) 「毎週日曜日」

児童自らの手で作り、描いたもので遊ぶことで情操を豊かにし、創作の楽しさを味わうことを目的として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
参加者	50	44	74	141	37	62	20	36	47	65	38	0	614	509	105

エ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
登録者	7	7	8	22	14	7	7	4	4	5	8	0	93	129	△36
貸出(冊)	308	230	262	393	409	222	195	188	27	116	106	8	2,464	2,082	382

オ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
自然観察会 「なのはな探検隊」	4月28日 7月14日	自然に親しむことにより、自然を大切に、情操を豊かにすることを目的として実施した。 講師：柳池 繁 氏	25名
年長児来館促進事業 「子どもフェスタ」 「生徒のための料理教室」	7月28日 1月26日	来館する中・高生から活動に関する相談に応じ、支援を行うとともに、環境美化と情操教育を図ることを目的として実施した。	10名
おはなし会・人形劇 「親子うきうき☆おはなし会」 「親子うきうき☆シアター」	7月 9日 8月 7日 12月11日 3月 7日	人形劇サークル「あねがさき」による人形劇上演。 「ぐりとぐら」によるおはなし会 「ぐりとぐら」によるおはなし会 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	24名 25名 43名
キッズクラブ	7・8月 (全14回)	夏休み期間中に、未就学児や小学生とその保護者を対象に、家庭でも楽しめる簡単なゲームや絵本の読み聞かせなどを実施した。	152名
親子参加型講習会 「いい歯でニコニコ！」	7月24日	幼児を持つ保護者が歯に関する情報の取得し、子どもと一緒に学びながらできることを目的として実施した。 講師：子育てネウボラセンター副主査 藤田 美由紀 氏	30名
世代間交流事業 「昔あそび」	7月28日 3月24日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもいやりの心の育成を育むことを目的とする。 協力団体：牛久小学校区小域福祉ネットワーク いちばらシルバー友の会 ※3月は新型コロナウイルス感染防止による休館のため中止。	275名
なのはな実験教室	8月18日	小中学生が科学に親しみ、豊かな情操を育むことを目的として実施した。 講師：柳池 繁 氏	14名
親子参加型講習会 「親子であそぼう」 (親子体操)	9月26日	乳幼児を持つ保護者を対象に、家庭で楽しく子育てに取り組み、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、親子で楽しめる体操や身体遊びを実施した。 講師：蔭山 陽子 氏	22名
親子参加型講習会 「ママのためのハッピーハローウィーン」	10月24日	幼児を持つ母親を対象に、参加者全員が仮装して、ハロウィーンに関するパネルシアターや工作やダンスを実施した。	22名

親子参加型講習会 「親子食育講座」	11月 6日 11月 8日	幼児を持つ保護者が子育てに役立つ食の基礎知識を習得すること目的として実施した。 講師：子育てネウボラセンター副主査 富岡 真理子 氏	38名
親子参加型講習会 「ベビーダンス」	11月 9日	幼児を持つ母親を対象に、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、ベビーマッサージを実施した。 講師：出口 麻依子 氏	23名
親子料理教室	2月 2日	食育の一環として、子供たちに料理を作る楽しさを知ってもらうことを目的に、親子料理教室を開催した。 講師：吉野 知子 氏	12名

成果	児童に健全な遊び場を提供するとともに健康増進や情緒を豊かにし、子ども達の健全育成を図ることができた。また、保健師や関係機関との協働により、育児に関する相談の充実を図ることで、育児不安の軽減・解消となり子育て支援に努めた。
課題・方向性	より幅広い年齢層に利用していただけるように、継続的に小・中・高等学校との連携を図る必要性がある。

⑤ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	H30度	増減
障がい者交流室	13	79	74	370	145	282	47	463	165	10	20	0	1,668	1,448	220
会議室①	119	198	207	517	195	666	289	662	450	238	191	0	3,732	3,372	360
合計	132	277	281	887	340	948	336	1,125	615	248	211	0	5,400	4,820	580